

4.2.3. 陸生動物（猛禽類（サシバ・クマタカ））

4.2.3. 陸生動物（猛禽類（サシバ・クマタカ））

評価書で影響評価の対象とされたサシバ（KM・NT、YM、TH・HG（旧 TH） つがい）及びクマタカ（A つがい）について、工事の実施による影響（重機の稼働、資材の運搬に伴う工事用車両の走行、樹木の伐採・処理、土地の造成、発破、地盤改良、工作物の建設、工事用道路等の建設による影響）並びに存在及び供用の影響（造成地の存在、工作物の存在、土地の利用、工作物の供用・稼働、関係車両の走行及び緑化等による影響）を把握するために調査を実施した。

(1) 調査項目

- ・サシバの繁殖状況
- ・クマタカの繁殖状況

(2) 調査地点

図 4.2.3-1 に示すとおり対象事業実施区域周辺に定点を設定し、猛禽類の出現状況に応じて適宜移動、地点の再配置を行いながら観察を実施した。その他、対象つがいの営巣地に対する踏査も実施した。

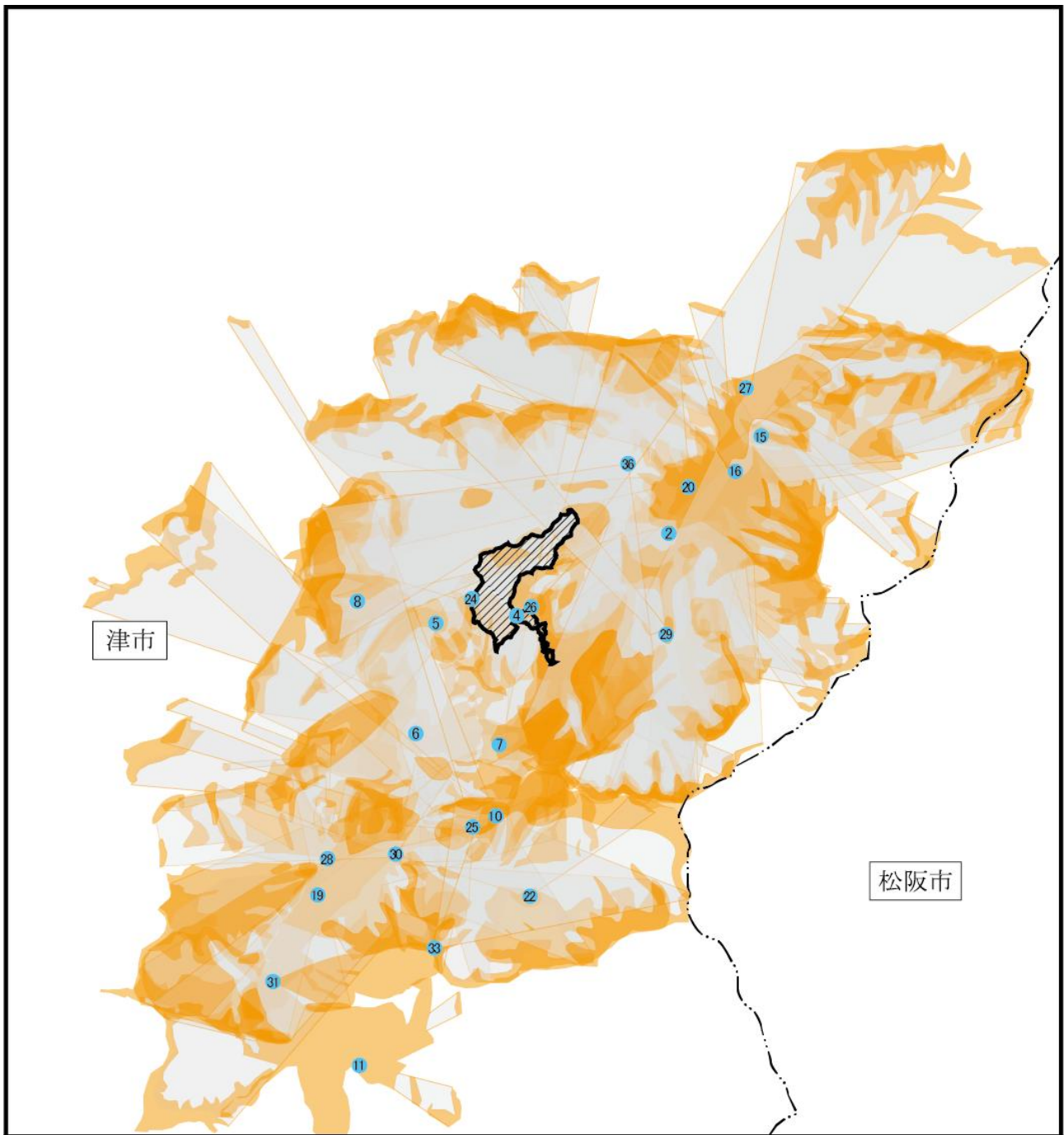
(3) 調査時期・頻度

調査時期を表 4.2.3-1 に示す。また、調査時期とサシバ・クマタカの繁殖サイクルとの比較を表 4.2.3-2 に示す。


なお、クマタカについては、繁殖期が年度をまたぐため、一部前年度に実施した調査「令和 6 年度 津市新最終処分場等施設整備に係る環境影響評価事後調査報告書（津市、令和 7 年 3 月）」の結果も含めた。


表 4.2.3-1 調査時期

調査項目		調査日	調査時間	備考
サシバ	定点 観察	2025年 4月24日～26日	8:00～16:00	
		2025年 5月26日～28日	8:00～16:00	
		2025年 6月23日～25日	8:00～16:00	
		2025年 7月 7日～ 9日	8:00～16:00	
クマタカ	定点 観察	2024年12月18日～20日	8:00～16:00	前年度業務
		2025年 1月22日～24日	8:00～16:00	
		2025年 2月 5日～ 7日	8:00～16:00	
		2025年 3月 5日～ 7日	8:00～16:00	
		2025年 5月 8日～10日	8:00～16:00	
		2025年 6月 9日～11日	8:00～16:00	
		2025年 7月28日～30日	8:00～16:00	
		2025年 8月 4日～ 6日	8:00～16:00	
		2025年12月 8日～10日	8:00～16:00	
		2026年 1月12日～14日	8:00～16:00	
		2026年 2月 2日～ 4日	8:00～16:00	
		2026年 3月 5日～ 7日	8:00～16:00	
		現地踏査 営巣地踏査		
2025年 5月26日	8:00～16:00			サシバ
2025年 6月23日～25日	8:00～16:00			
2025年 7月 7日～ 9日	8:00～16:00			
2025年 8月 4日	8:00～16:00			クマタカ
2025年12月10日	8:00～16:00			古巣
2026年 3月 6日	8:00～16:00			



凡 例

 対象事業実施区域

 定点観察地点
(地点番号を図内に丸数字で表示)

 上空と山肌が見える範囲


 上空が見える範囲

図 4. 2. 3-1 調査地点位置
(猛禽類調査定点)

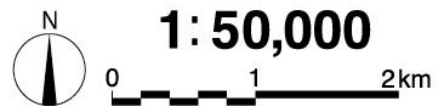


表 4. 2. 3-2 調査時期とサシバ、クマタカの繁殖サイクルの比較

【サシバ】

		非繁殖期 (東南アジア)		渡り	求愛 造巢	抱卵	巣内 育雛	巣外 育雛	渡り	非繁殖期 (東南アジア)			
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
定点	2025				○	○	○	○					
現地踏査	2025					○	○	○					

注1) 表中の○は本業務において実施した調査を示す。

注2) 繁殖サイクルは「平成25年度津市新最終処分場等施設整備に係る環境影響評価事後調査報告書（津市、平成26年3月）」を参考に、繁殖サイクルの実態に合わせて一部改変した。

【クマタカ】

		求愛	造巢	抱卵	巣内 育雛	巣外 育雛	求愛						
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
定点	2024												●
	2025	●	●	●		○	○	○	○				○
	2026	○	○	○									
現地踏査	2024												●
	2025								○				○

注1) 表中の○は本業務、●は前年度業務において実施した調査を示す。

注2) 繁殖サイクルは「平成25年度津市新最終処分場等施設整備に係る環境影響評価事後調査報告書（津市、平成26年3月）」に従った。

(4) 調査方法

対象事業実施区域周辺で確認された猛禽類（サシバ・クマタカ）について、各種の生態を考慮し、適切に定点観察、現地踏査及び営巣地踏査を行った。

サシバ、クマタカの基本的な生態を表 4.2.3-3 に示す。重要な種の選定基準を表 4.2.3-4 に示す。

表 4.2.3-3 サシバ、クマタカの基本的な生態

種名	生態	重要な種の選定基準
サシバ	<p>【基本情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北地方以南に夏鳥として渡来する中型の猛禽類 ・里山環境に生息している ・サシバの豊かな生息環境が維持されている地域は、里山環境が多様で、保全状態が良好であることを意味し、生態系の多様性を示す1つの証になる <p>【食性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シマヘビやニホンカナヘビなどの爬虫類 ・トノサマガエルやニホンアカガエルなどの両生類 ・トノサマバッタやアブラゼミ、ヤマユガの幼虫などの昆虫類 ・里山や水田周辺を生息地とする小動物が捕食対象 <p>【行動圏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・営巣木から概ね 500m 以内 	<p>国 RL2020 : VU</p> <p>三重県 RDB2005 : EN</p> <p>三重県 RL2024 : EN</p> <p>近畿 RDB : ランク 2</p>
クマタカ	<p>【基本情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留鳥として北海道、本州、四国、九州に分布・繁殖 <p>【食性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・獲物のうち多いものはノウサギ、ヘビ類、ヤマドリ ・森林に生息するさまざまな小型～中型の爬虫類・鳥類・哺乳類などを捕食している <p>【行動圏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狭いもので約 10km²、場合によっては 45km² を超える 	<p>種の保存 : 国内希少</p> <p>国 RL2020 : EN</p> <p>三重県 RDB2005 : EN</p> <p>三重県 RL2024 : EN</p> <p>近畿 RDB : ランク 2</p>

注) サシバの生態については「サシバ保護の進め方（環境省、平成 25 年）」、クマタカの生態については「猛禽類保護の進め方（改訂版）—特にイヌワシ、クマタカ、オオタカについて—（環境省、平成 24 年）」を参考とした。

【定点観察】

対象事業実施区域周辺に設定した地点から望遠鏡や双眼鏡で行動を観察・記録した。この際、適切に個体識別するとともに、つがいの継続性などを把握できるよう、適宜個体写真の撮影を行った。また、採餌や採餌の確認に努め、餌動物の種類を可能な範囲で特定した。

調査定点配置状況等を表 4.2.3-5 に示す。

【現地踏査及び営巣地踏査】

繁殖経過等に応じて現地踏査を行い、営巣木や繁殖・巣立ち状況の確認を実施した。

【その他の重要な鳥類】

上記調査時に観察されたその他の重要な鳥類（表 4.2.3-4 の選定基準に該当する鳥類）についてもあわせて記録した。

表 4.2.3-4 重要な種の選定基準

No.	選定基準	略号	カテゴリー区分
①	「文化財保護法」(法律第 214 号、1950 年)によって定められている天然記念物	天 特天	天然記念物 特別天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(法律第 75 号、1992 年)の記載種	国内 国際	国内希少野生動植物種 国際希少野生動植物種
③	「三重県指定希少野生動植物種の指定」(三重県、2004 年)の記載種	指定	指定希少野生動植物種
④	「環境省レッドリスト 2020」(環境省、2020 年)の記載種 ※評価書で用いられた「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」及び「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物 I 及び植物 II のレッドリストの見直しについて」(環境省報道発表資料、2007 年)の改訂版	EX EW CR EN VU NT DD LP	絶滅 野生絶滅 絶滅危惧 I A 類 絶滅危惧 I B 類 絶滅危惧 II 類 準絶滅危惧 情報不足 絶滅のおそれのある地域個体群
⑤	「三重県レッドデータブック 2005 動物」(三重県、2006 年)の改訂版の記載種	EX EW CR EN VU NT DD	絶滅 野生絶滅 絶滅危惧 I A 類 絶滅危惧 I B 類 絶滅危惧 II 類 準絶滅危惧 情報不足
⑥	「三重県レッドリスト 2024」(三重県、2024 年)の記載種 ※評価書で用いられた「三重県レッドデータブック 2005 動物」(三重県、2006 年)の改訂版	EX EW CR EN VU NT DD LC	絶滅 野生絶滅 絶滅危惧 I A 類 絶滅危惧 I B 類 絶滅危惧 II 類 準絶滅危惧 情報不足 低懸念
⑦	「近畿地区・鳥類レッドデータブック絶滅危惧種判定システムの開発ー」(江崎保男他、2002 年)の記載種	ランク 1 ランク 2 ランク 3 ランク 4	危機的絶滅危惧種 絶滅危惧種 準絶滅危惧種 要注目種

表 4.2.3-5(1) 調査定点配置状況等 (サシバ)

調査項目	調査回	調査実施日	天候	調査地点																	地点 /日			
				St. 2	St. 4	St. 5	St. 8	St. 15	St. 16	St. 19	St. 20	St. 22	St. 24	St. 25	St. 26	St. 27	St. 28	St. 29	St. 30	St. 36				
定点観察調査	第1回	2025年4月24日	晴	▽												△	○		○		○	4		
		2025年4月25日	曇			△				○							○	▽		○			4	
		2025年4月26日	晴					○		△	○						▽				○		4	
	第2回	2025年5月26日	曇			○				○										○			3	
		2025年5月27日	曇のち雨														○			○		○	3	
		2025年5月28日	晴			△				○							○					▽	3	
	第3回	2025年6月23日	雨		○	▽	○			○			▽								△		△	5
		2025年6月24日	雨								○			○						○		○		5
		2025年6月25日	曇のち雨					○	○					○						○	○			5
	第4回	2025年7月 7日	晴	○					○	○										○			4	
		2025年7月 8日	曇のち晴								○			○						○		○		4
		2025年7月 9日	曇のち晴			○				△				○	▽	○							4	

延べ 48 定点(地点・日)

- 注1) 観察定点記号 ○：同一地点で終日観察 △：午前に観察 ▽：午後には観察
 注2) 調査は定点からの観察を基本とするが、鳥類の出現状況に応じて周辺を移動しながら観察した。

表 4.2.3-5(2) 調査定点配置状況等 (クマタカ)

調査項目	調査回	調査実施日	天候	観察地点																	地点 /日			
				St. 2	St. 4	St. 5	St. 6	St. 7	St. 8	St. 10	St. 11	St. 15	St. 16	St. 19	St. 20	St. 25	St. 27	St. 28	St. 29	St. 30		St. 31	St. 33	
定点観察調査	第1回	2025年5月8日	晴			△								○		△		▽		▽			3	
		2025年5月9日	曇のち雨									○			○								○	3
		2025年5月10日	曇									○			○								○	3
	第2回	2025年6月9日	曇のち雨									○		○		○								3
		2025年6月10日	雨のち曇									△		○		○						▽		3
		2025年6月11日	曇一時雨			○									○		○							3
	第3回	2025年7月28日	晴	○		○									○									3
		2025年7月29日	晴			○											○						○	3
		2025年7月30日	晴		○																		○	3
	第4回	2025年8月4日	晴											○		○		○						3
		2025年8月5日	晴													○	○					○		3
		2025年8月6日	晴													○		○					○	3
第5回	2025年12月8日	晴	○											○			○						3	
	2025年12月9日	曇のち晴														○		○				○	3	
	2025年12月10日	晴									○				▽		○				△		3	
第6回	2026年1月12日	晴	○										○	○									3	
	2026年1月13日	晴一時雨								○					○		○						3	
	2026年1月14日	晴								○						○						○	3	
第7回	2026年2月2日	晴	▽											△	○		○						3	
	2026年2月3日	晴				△	▽	▽							△		△				▽		3	
	2026年2月4日	晴				○	○															○	3	
第8回	2026年3月5日	晴				○								○								○	3	
	2026年3月6日	曇一時晴				○	○															○	3	
	2026年3月7日	晴一時曇	○			○								○									3	

延べ 72 定点(地点・日)予定

- 注1) 観察定点記号 ○：同一地点で終日観察 △：午前には観察 ▽：午後には観察
 注2) 調査は定点からの観察を基本とするが、鳥類の出現状況に応じて周辺を移動しながら観察した。

(5) 調査結果

a) サシバ

① 2025 年繁殖期

2025 年 4 月から 8 月までの調査で合計 253 例のサシバが確認された。調査回ごとの確認例数を表 4.2.3-6 に、主な確認状況を表 4.2.3-7 に、個体写真を図 4.2.3-2 (1) 及び (2) に示す。

なお、調査結果は、後述するクマタカ調査時に確認された個体も含めている。

事後調査の調査対象つがいは、評価書で影響評価の対象とされた KM・NT、YM、TH・HG (旧 TH) つがいとしているが、2011 年度調査より繁殖活動が確認されている NO つがい、2014 年度調査より繁殖活動が確認されている NK つがい、2018 年度調査より繁殖活動が確認されている OD つがい、2023 年度調査より繁殖活動が確認されている SK つがいに加え、本年度調査より確認された事業地内つがいについても調査対象とした。

繁殖に関わる行動は、本年度調査で対象とした全 8 つがい (KM・NT、YM、TH・HG、NO、NK、OD、SK、事業地内つがい) のうち、KM・NT つがいで既知の営巣地 (KM8) で幼鳥 1 個体、TH・HG つがいで新規の営巣地 (TH3) で幼鳥 2 個体、OD つがいで既知の営巣地 (OD3) で幼鳥 1 個体が確認された。これら全てのつがいで幼鳥の巣立ちを確認した。また、営巣地は不明であるが、NK つがいの既知の営巣地 (NK5) の八手俣川対岸にて幼鳥 2 個体のとまりと飛翔、NO つがいの既知の営巣地付近で幼鳥 1 個体のとまり、SK つがいの既知の営巣地周辺で幼鳥 2 個体のとまりと飛翔が確認されており、いずれも繁殖に成功したと考えられる。なお、本年度調査より確認された事業地内つがいについては、対象事業実施区域内の調整池周辺で幼鳥 2 個体のとまりと飛翔を確認し、繁殖に成功したと考えられる。

なお、YM つがいは、6 月までは既知の営巣地付近で個体を確認しており、ディスプレイ飛翔や餌運びなどを確認したが、7 月以降に繁殖に関する行動が確認されなかったことから、繁殖を中断したと判断した。

表 4.2.3-6 調査回ごとのサシバ確認例数

調査時期	性別年齢	成鳥			若鳥			幼鳥	不明			合計
		雄	雌	不明	雄	雌	不明	不明	雄	雌	不明	
2025 年繁殖期	4月24日～26日	12	7	39							12	70
	5月 8日～10日※	6	3	8		1			1		4	23
	5月26日～28日	11	6	7							5	29
	6月 9日～11日※	4	2	8					1	1	7	23
	6月23日～25日	9	5	22			3			1	9	49
	7月 7日～ 9日	11		11			1	3			8	34
	7月28日～30日※	2	1	2				16			1	22
	8月 4日～ 6日※			1				1			1	3
合計		55	24	98	0	1	4	20	2	2	47	253

※クマタカ調査時に確認。

表 4.2.3-7 サシバの主な確認状況

繁殖期	調査日	確認例数	つがい	主な確認状況
2025	4月調査 ・4/24～26	70 例	KM・NT	既知の営巣地付近でミサゴへの排斥行動を確認
			YM	既知の営巣地付近でディスプレイ飛翔を確認
			TH・HG	既知の営巣地付近で飛翔を確認
			NO	既知の営巣地付近で狩り、餌運び、クマタカへの排斥行動を確認
			NK	既知の営巣地付近でトビへの排斥行動、ディスプレイ飛翔を確認
			OD	既知の営巣地付近で狩り、ディスプレイ飛翔を確認
			SK	既知の営巣地付近で飛翔を確認
			事業地内	個体の確認なし
	5月調査 ・5/ 8～10 ・5/26～28	52 例	KM・NT	KM8（既知）にて抱卵もしくは抱雛する個体を確認
			YM	既知の営巣地付近で餌運びを確認
			TH・HG	既知の営巣地付近でとまりを確認
			NO	既知の営巣地付近でクマタカへの排斥行動を確認
			NK	既知の営巣地付近でサシバ侵入個体への排斥行動を確認
			OD	既知の営巣地付近でとまりを確認
			SK	既知の営巣地付近でとまり、狩りを確認
			事業地内	個体の確認なし
	6月調査 ・6/ 9～11 ・6/23～25	72 例	KM・NT	KM8 巣（既知）にて、巣内にいる幼鳥 2 個体を確認
			YM	既知の営巣地付近で飛翔を確認
			TH・HG	既知の営巣地付近で成鳥の飛翔を確認 HG1 巣（既知）の未使用を確認
			NO	既知の営巣地付近でとまりを確認 NO9 巣（既知）の未使用を確認
			NK	既知の営巣地付近でとまりを確認
			OD	既知の営巣地付近でとまりを確認 OD3 巣（既知）に巣材の搬入痕跡を確認
			SK	既知の営巣地付近でとまり、狩りを確認 SK1 巣（既知）の未使用を確認
			事業地内	個体の確認なし
	7月調査 ・7/ 7～ 9 ・7/28～30	56 例	KM・NT	既知の営巣地付近で巣立ち幼鳥 1 個体のとまりを確認
			YM	既知の営巣地付近で成鳥と若鳥の飛翔を確認したが、繁殖に関する行動は未確認
			TH・HG	TH3（新巣）にて、巣内にいる幼鳥 2 個体を確認 TH3（新巣）付近で巣立ち幼鳥 2 個体の飛翔を確認
			NO	既知の営巣地付近で成鳥の飛翔、巣立ち幼鳥 1 個体の飛翔やとまりを確認
NK			既知の営巣地付近で巣立ち幼鳥 2 個体のとまり、飛翔を確認	
OD			既知の営巣地付近で巣立ち幼鳥 1 個体のとまりを確認	
SK			既知の営巣地付近で巣立ち幼鳥 2 個体のとまり、飛翔を確認	
事業地内			事業地内（調整池付近）で巣立ち幼鳥 2 個体のとまり、飛翔を確認 事業地内（調整池付近）で餌運びを確認	
8月調査 ・8/ 4～ 6	3 例	（クマタカ調査のみのため参考） SK 付近等で数度飛翔を確認したが、繁殖に関する行動は未確認		

注) 別途実施したクマタカ調査時における確認結果及び、営巣地等への踏査時の確認結果も含む。









	
<p>KM・NT つがい雄成鳥 (2025/6/23)</p>	<p>KM・NT つがい巣立ち幼鳥 (2025/7/7)</p>
	
<p>YM つがい雄成鳥 (餌運び) (2025/5/8)</p>	<p>YM つがい雄成鳥 (2025/5/8)</p>
	
<p>TH・HG つがい雄成鳥 (2025/7/28)</p>	<p>TH・HG つがい巣立ち幼鳥 (2025/7/28)</p>
	
<p>NO つがい雄成鳥 (餌運び) (2025/4/26)</p>	<p>NO つがい巣立ち幼鳥 (2025/7/30)</p>

図 4. 2. 3-2 (1) 確認個体 (サシバ)

<p>NK つがい雄成鳥 (2025/6/11)</p>	<p>NK つがい巣立ち幼鳥 (2025/7/29)</p>
<p>OD つがい雄成鳥 (狩り) (2025/4/26)</p>	<p>OD つがい巣立ち幼鳥 (2025/7/8)</p>
<p>SK つがい性別不明成鳥 (2025/5/28)</p>	<p>SK つがい巣立ち幼鳥 (2025/7/9)</p>
<p>事業地内つがい雄成鳥 (餌運び) (2025/7/30)</p>	<p>事業地内つがい巣立ち幼鳥 (2025/7/30)</p>

図 4.2.3-2 (2) 確認個体 (サシバ)

② 営巣地の状況

4月～8月に定点観察、5月～7月に営巣地付近での個体観察及び営巣地への現地踏査を行い、営巣地の状況及び繁殖状況の確認を行った。サシバ営巣地の確認状況を表4.2.3-8に、巣の状況を図4.2.3-3に示す。

表4.2.3-8 サシバ営巣地の確認状況

調査日	KM・NT つがい	YMつがい	TH・HG つがい	NOつがい	NKつがい	ODつがい	SKつがい	事業地内 つがい
	営巣地名： KM1, KM2, KM 3, KM4, KM5, KM6, KM7, KM8	営巣地名： YM1, YM2, YM3, YM4, YM5	営巣地名： TH1, TH2, HG1, TH3	営巣地名： NO1, NO2, NO 3, NO4, NO5, NO6, NO7, NO8	営巣地名： NK1, NK2, NK3, NK4, NK5	営巣地名： OD1, OD2, OD3	営巣地名： SK1	営巣地名： -
2025年4月24日 ～26日 (定点観察)	既知の営巣 地付近で飛 翔、 ミサゴ に対する排 斥行動 を確 認	既知の営巣 地付近でデ ィスプレイ 飛翔を確認	既知の営巣 地付近で飛 翔を確認	既知の営巣 地付近で飛 翔、狩り、餌 運び、 クマ タカに対す る排斥行動 を確認	既知の営巣 地付近でデ ィスプレイ 飛翔、 トビ に対する排 斥行動 を確 認	既知の営巣 地付近でデ ィスプレイ 飛翔、狩り を確認。	既知の営巣 地付近で飛 翔、狩り を確認。	-
2025年5月8日～ 10日、26日～28 日 (定点観察・現 地踏査)	既知の営巣 地 (KM8) で 抱卵または 抱雛する成 鳥を確認	既知の営巣 地付近での 飛翔、餌運 びを確認	既知の営巣 地付近でと まりを確認	既知の営巣 地付近で ク マタカに対 する排斥行 動 を確認	既知の営巣 地付近で サ シバ侵入個 体に対する 排斥行動 を 確認	既知の営巣 地付近で飛 翔、とまり を確認	既知の営巣 地の付近で 飛翔を確認	-
2025年6月9日～ 11日、23日～25 日 (定点観察・現 地踏査)	既知の営巣 地 (KM8) で 幼鳥2個体 を確認	既知の営巣 地付近での 飛翔を確認	既知の営巣 地の北で飛 翔を確認	既知の営巣 地の付近で 飛翔、とまり を確認	既知の営巣 地の付近で 飛翔、とまり を確認	既知の営巣 地 (OD3) に 青葉の搬入 痕跡を確認。 既知の 営巣地付近 で飛翔、と まりを確認	既知の営巣 地の付近で 飛翔を確認	-
2025年7月7日～ 9日、28日～30日 (定点観察・現 地踏査)	営巣地付近 で 巣立ち幼 鳥1個体の とまり を確 認。	繁殖に関す る行動の確 認なし	新規の営巣 地 (TH3) で 巣内に幼鳥 2個体を確認。 巣立ち 幼鳥2個体 の飛翔、と まり を確認	営巣地付近 で 巣立ち幼 鳥1個体の 飛翔、とまり を確認。	営巣地付近 で 巣立ち幼 鳥2個体の 飛翔 を確 認。	営巣地付近 で 巣立ち幼 鳥1個体の とまり を確 認	営巣地付近 で 巣立ち幼 鳥2個体の 飛翔 を確認	防災調整池 付近で餌運 び、 巣立ち 幼鳥2個体 の飛翔、と まり を確認
2025年8月4日～ 6日 (定点観察)	-	-	-	-	-	-	-	-

注) 本年度の繁殖に使用した巣を**網掛け**で示す。







対象	写真			
KM・NT つがい				
	営巣木	KM8 (2022～2025 年繁殖巣)	胸高直径	45 cm
	樹種	スギ	周辺植生	スギヒノキ植林
	樹高	22m (目測)	地形	谷部斜面
	架巢高	18m (目測)	架巢位置	営巣木を中心に西向き
	巣サイズ	50 cm×30 cm×40 cm (目測)	繁殖状況	幼鳥 1 個体を確認
TH・HG つがい				
	営巣木	TH3 (2025 年繁殖巣)	胸高直径	60 cm
	樹種	モミ	周辺植生	スギ植林、落葉広葉樹林
	樹高	25m (目測)	地形	谷部斜面
	架巢高	20m (目測)	架巢位置	営巣木を中心に東向き
	巣サイズ	70 cm×60 cm×30 cm (目測)	繁殖状況	幼鳥 2 個体を確認
OD つがい				
	営巣木	OD3 (2024、2025 年繁殖巣)	胸高直径	58 cm
	樹種	スギ	周辺植生	スギヒノキ植林
	樹高	25m (目測)	地形	谷部斜面
	架巢高	19m (目測)	架巢位置	営巣木を中心に北東方向
	巣サイズ	70 cm×70 cm×40 cm (目測)	繁殖状況	幼鳥 1 個体を確認

図 4.2.3-3 サシバの巣の状況

b) クマタカ

① 2024-2025 年繁殖期

2024 年 12 月から 2025 年 8 月までの調査で計 72 例のクマタカが確認された。なお、調査結果は前述のサシバ調査時の確認個体も含めている。調査回ごとの確認例数を表 4.2.3-9 に、主な確認状況を表 4.2.3-10 に、クマタカの個体写真を図 4.2.3-4 (1) 及び (2) に示す。

なお、評価書の事後調査計画における調査対象つがいは A つがいとしているが、B つがいについても可能な限り記録した。

調査対象である A つがいの繁殖に関わる行動として、1 月につがいの並びとまりが確認された。繁殖に関わる行動が確認されたのは、過年度営巣地 (A2) から西に 300m 離れたエリアであった。しかし、3 月以降当該エリアでの出現は確認されなかった。4 月以降、探餌と考えられる行動は確認されたものの、繁殖活動を示唆する顕著な行動は確認されなかった。一方で、2026 年 2 月、3 月調査時には、過年度営巣地 (A1) 周辺で巣立ちした幼鳥が確認された。

B つがいの繁殖に関わる行動として、1 月、3 月に過年度営巣地 (B1) 周辺でディスプレイ飛翔 (V 字、波状) が確認された。4 月以降も過年度営巣地周辺で飛翔が確認されており、8 月に営巣地踏査を行ったところ、B1 巣を利用した痕跡が確認され、巣の周辺で巣立ち幼鳥の鳴き声が確認されたため、繁殖に成功したと考えられる。

表 4.2.3-9 調査回ごとのクマタカ確認例数

調査時期		性別年齢			成鳥			若鳥			幼鳥	不明			合計
		雄	雌	不明	雄	雌	不明	不明	雄	雌	不明				
2024-2025 年 繁殖期	12月18日～20日	1	2	5										8	
	1月22日～24日	5	6	3										14	
	2月 5日～ 7日	3	2	2									1	8	
	3月 5日～ 7日	8	2	3									2	15	
	4月24日～26日※	1	1	11									1	14	
	5月 8日～10日			3									1	4	
	5月26日～28日※	1	1											2	
	6月 9日～11日			1										1	
	6月23日～25日※													0	
	7月 7日～ 9日※													0	
	7月28日～30日	1		1										2	
	8月 4日～ 6日		1	2					1					4	
合計		20	15	31	0	0	0	1	0	0		5	72		

注) 2024 年 12 月～2025 年 3 月は 2024 年度調査の結果である。

※ サシバ調査時に確認。

表 4.2.3-10 (1) クマタカの子な確認状況 (2024-2025 年繁殖期)

繁殖期	調査日	確認 例数	主な確認状況
2024-2025	12月調査 ・12/18~20	8例	【A つがい】 ・♂成鳥1例、♀成鳥2例、性別不明成鳥1例を確認 ・つがいの同時飛翔を確認 【B つがい】 ・性別不明成鳥4例を確認 ・繁殖に関わる行動は未確認
	1月調査 ・1/22~24	14例	【A つがい】 ・雄成鳥2例、♀成鳥3例、性別不明成鳥1例を確認 ・つがいの並びとまりを確認 【B つがい】 ・雄成鳥3例、♀成鳥3例、性別不明成鳥2例を確認 ・つがいの同時飛翔、ディスプレイ飛翔 (V字) を確認
	2月調査 ・2/5~7	8例	【A つがい】 ・雌成鳥2例を確認、性別不明成鳥1例を確認 ・1月につがいの並びとまりが確認された山林で雌成鳥の長時間のとまり行動を確認 ・侵入個体 (クマタカ) に対する排斥行動を確認 【B つがい】 ・雄成鳥3例、性別不明成鳥2例を確認 ・繁殖に関わる行動は未確認
	3月調査 ・3/5~7	15例	【A つがい】 ・生息未確認 【B つがい】 ・雄成鳥7例、雌成鳥2例、性別不明成鳥2例を確認 ・営巣地付近で、ディスプレイ飛翔 (波状飛行) を確認 【その他】 ・性別不明年齢不明のクマタカ2羽の同時飛翔を確認

表 4.2.3-10 (2) クマタカの子な確認状況 (2024-2025 年繁殖期)

繁殖期	調査日	確認 例数	主な確認状況
2024-2025	4月調査 ・4/24～26	14例	(サンバ調査のみであるため参考) 【Aつがい】 ・性別不明成鳥4例を確認。 ・繁殖に関わる行動は未確認。 【Bつがい】 ・雄成鳥1例、雌成鳥1例、性別不明成鳥7例、性別年齢不明個体1例を確認。 ・ディスプレイ飛翔(V字、波状)を確認。
	5月調査 ・5/8～10 ・5/26～28	6例	【Aつがい】 ・雄成鳥1例を確認。 ・繁殖に関わる行動は未確認。 【Bつがい】 ・雌成鳥1例、性別不明成鳥3例、性別年齢不明個体1例を確認。 ・繁殖に関わる行動は未確認。
	6月調査 ・6/9～11 ・6/23～25	1例	【Aつがい】 ・個体の確認無し。 【Bつがい】 ・性別不明成鳥1例を確認。 ・繁殖に関わる行動は未確認。
	7月調査 ・7/7～9 ・7/28～30	2例	【Aつがい】 ・個体の確認無し。 【Bつがい】 ・雄成鳥1例、性別不明成鳥1例を確認。 ・ディスプレイ飛翔(V字)を確認。 【その他】 ・性別年齢不明個体1例を確認。
	8月調査 ・8/4～6	4例	【Aつがい】 ・雌成鳥1例、性別不明成鳥1例を確認。 ・繁殖に関わる行動は未確認。 【Bつがい】 ・性別不明成鳥1例、幼鳥1例を確認。 ・営巣林内で成鳥と幼鳥の鳴きかわしを確認。

注1) 別途実施したサンバ調査時における確認結果及び、営巣地等への踏査時の確認結果も含む。

注2) 2024年12月～2025年3月は2024年度調査の結果である。

個体名	写真	特徴
Aつがい	 <p>2025年1月撮影</p>	つがいの並びとまりの確認
Aつがい 雌	 <p>2025年2月撮影</p> <p>欠損有</p>	性別：雌 年齢：成鳥 特徴 ・左翼付け根付近に欠損あり
	 <p>2025年8月撮影</p> <p>伸長中</p>	性別：雌 年齢：成鳥 特徴 ・右翼P7伸長中
Aつがい 雄	 <p>2025年1月撮影</p>	性別：雄 年齢：成鳥 特徴 ・目立った欠損等なし
	 <p>2025年5月撮影</p> <p>羽根先欠け</p> <p>P1換羽中</p>	性別：雄 年齢：成鳥 特徴 ・左翼P6、P7羽根先欠け ・P1換羽中
Aつがい 性別不明	 <p>2025年4月撮影</p>	性別：性別不明 年齢：成鳥 特徴 ・目立った欠損等なし

図 4. 2. 3-4 (1) 確認個体 (クマタカ 2024-2025 年繁殖期 Aつがい)







個体名	写真	特徴
Bつがい 雌	 <p>2025年1月撮影</p>	性別：雌 年齢：成鳥 特徴 ・右翼P1付近に欠損 ・尾羽先端に欠損
	 <p>2025年5月撮影</p>	性別：雌 年齢：成鳥 特徴 ・目立った欠損等なし
Bつがい 雄	 <p>2025年1月撮影</p>	性別：雄 年齢：成鳥 特徴 ・目立った欠損等なし
	 <p>2025年2月撮影</p>	性別：雄 年齢：成鳥 特徴 ・目立った欠損等なし
	 <p>2025年3月撮影</p>	性別：雄 年齢：成鳥 特徴 ・目立った欠損等なし
	 <p>2025年7月撮影</p>	性別：雄 年齢：成鳥 特徴 ・P6換羽中

図 4. 2. 3-4 (2) 確認個体 (クマタカ 2024-2025 年繁殖期 Bつがい)

② 2025-2026 年繁殖期

2025 年 12 月から 2026 年 3 月までの調査で計 58 例のクマタカが確認された。調査回ごとの確認例数を表 4.2.3-11 に、主な確認状況を表 4.2.3-12 に、クマタカの個体写真を図 4.2.3-5 (1) 及び (2) に示す。

なお、評価書の事後調査計画における調査対象つがいは A つがいとしているが、B つがいについても可能な限り記録した。

調査対象である A つがいの繁殖に関わる行動として、2 月から 3 月に A つがい幼鳥の飛翔、とまりが確認された。成鳥雄、成鳥雌も確認されているが、目立ったディスプレイ飛翔の確認は少なかった。2024-2025 年繁殖期に生まれた幼鳥の育雛を継続していると推定される。

B つがいの繁殖に関わる行動として、12 月から 3 月に過年度営巣地 (B1) 周辺で 2024-2025 年繁殖期に生まれた幼鳥の飛翔、とまりが確認された。B つがいについても目立ったディスプレイ飛翔の確認は少なく、2024-2025 年繁殖期に生まれた幼鳥の育雛を継続していると推定される。

表 4.2.3-11 調査回ごとのクマタカ確認例数

調査時期		性別年齢			成鳥			若鳥			幼鳥	不明			合計
		雄	雌	不明	雄	雌	不明	不明	雄	雌	不明				
繁殖期 2025- 2026 年	12月8日～10日	2	1	1					2				1	7	
	1月12日～14日	1		2					3				1	7	
	2月 5日～ 7日	5	12	3					6					26	
	3月 5日～ 7日	6	6	1					5					18	
合計		14	19	7	0	0	0		16	0	0	2	58		

表 4. 2. 3-12 クマタカの子な確認状況 (2025-2026 年繁殖期)

繁殖期	調査日	確認 例数	主な確認状況
2025-2026	12月調査 ・12/8～10	7例	<p>【Aつがい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雄成鳥2例、雌成鳥1例、性別不明成鳥1例を確認。 ・繁殖に関わる行動は未確認。 <p>【Bつがい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性別不明幼鳥2例、性別年齢不明個体1例を確認。 ・2024-2025年繁殖期生まれの幼鳥の飛翔を確認。
	1月調査 ・1/12～14	7例	<p>【Aつがい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雄成鳥1例、性別不明成鳥2例を確認。 ・繁殖に関わる行動は未確認。 <p>【Bつがい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性別不明幼鳥3例、性別年齢不明個体1例を確認。 ・2024-2025年繁殖期生まれの幼鳥の飛翔、とまりを確認。
	2月調査 ・2/ 2～ 4	26例	<p>【Aつがい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雄成鳥5例、雌成鳥10例、性別不明成鳥3例、性別不明幼鳥4例を確認。 ・2024-2025年繁殖期生まれ幼鳥の飛翔、とまりを確認。 <p>【Bつがい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雌成鳥2例、性別不明幼鳥2例を確認。 ・ディスプレイ飛翔(V字)を確認。
	3月調査 ・3/ 5～ 7	18例	<p>【Aつがい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雄成鳥4例、雌成鳥5例、性別不明幼鳥4例を確認。 ・ディスプレイ飛翔(V字、波状)を確認。 <p>【Bつがい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雄成鳥2例、雌成鳥1例、幼鳥1例を確認。 ・ディスプレイ飛翔(波状)を確認。 ・侵入個体への排斥を確認。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性別不明成鳥1例を確認。

個体名	写真	特徴
Aつがい 雌	 <p>2025年12月撮影</p>	性別：雌 年齢：成鳥 特徴 ・右翼S1羽根先欠け
	 <p>2026年2月撮影</p>	性別：雌 年齢：成鳥 特徴 ・右翼S1羽根先欠け ・左翼P5羽根先欠け
Aつがい 雄	 <p>2025年12月撮影</p>	性別：雄 年齢：成鳥 特徴 ・両翼P8羽根先欠け
	 <p>2026年2月撮影</p>	性別：雄 年齢：成鳥 特徴 ・両翼P8羽根先欠け
Aつがい 幼鳥	 <p>2026年2月撮影</p>	性別：性別不明 年齢：幼鳥 特徴 ・目立った欠損等なし
	 <p>2026年3月撮影</p>	性別：性別不明 年齢：幼鳥 特徴 ・目立った欠損等なし

図 4. 2. 3-5 (1) 確認個体 (クマタカ 2025-2026 年繁殖期 Aつがい)

個体名	写真	特徴
Bつがい 雌	 <p data-bbox="331 450 507 479">2026年2月撮影</p>	性別：雌 年齢：成鳥 特徴 ・左翼S6付近欠損
Bつがい 雄	 <p data-bbox="331 745 507 775">2026年3月撮影</p>	性別：雄 年齢：成鳥 特徴 ・右翼P5羽根先欠け
Bつがい 幼鳥	 <p data-bbox="331 1043 507 1072">2025年12月撮影</p>	性別：性別不明 年齢：幼鳥 特徴 ・目立った欠損等なし
	 <p data-bbox="331 1348 507 1377">2026年1月撮影</p>	性別：性別不明 年齢：幼鳥 特徴 ・目立った欠損等なし
	 <p data-bbox="331 1653 507 1682">2026年2月撮影</p>	性別：性別不明 年齢：幼鳥 特徴 ・目立った欠損等なし
	 <p data-bbox="331 1955 507 1984">2026年3月撮影</p>	性別：性別不明 年齢：幼鳥 特徴 ・右翼S1羽根先欠け ・左翼P5羽根先欠け

図 4. 2. 3-5 (2) 確認個体 (クマタカ 2025-2026 年繁殖期 B つがい)

③ 営巣地及び繁殖地の状況

2024年12月、2025年8月、12月及び2026年3月に営巣地への踏査を行い、営巣地の状況及び繁殖状況の確認を行った。クマタカ営巣地の確認状況を表4.2.3-13に、巣の状況を図4.2.3-6に示す。

表4.2.3-13 クマタカ営巣地の確認状況

確認日	A つがい (営巣地名：A1, A2)	B つがい (営巣地名：B1)
2024年12月20日	—	<ul style="list-style-type: none"> ・B1 巣への踏査を実施 ・巣は2024年8月踏査時と比べて目立った違いはみられなかった。
2025年8月4日	—	<ul style="list-style-type: none"> ・B1 巣への踏査を実施 ・巣に巣材の搬入痕が確認され、巣の周辺で多数の糞痕と食痕が確認された。 ・巣の周辺で幼鳥と成鳥（親鳥）の鳴きかわしが確認された。
2025年12月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・A2 巣周辺への踏査を実施 ・新たな巣は未確認 	—
2026年3月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・A つがい幼鳥が頻繁に確認される谷への踏査を実施 ・新たな巣は未確認 	—

注) 2024年12月は2024年度調査における結果を示す。







対象	写真	
B つがい 営巣地 B1		
	※B1 巣 近景	※B1 巣 営巣林
		
	※B1 巣 巣内の様子	※B1 巣周辺の食痕
		
	※B1 巣周辺の糞痕	※参考：2024年8月のB1 巣

図 4. 2. 3-6 クマタカの巣の確認状況

c) その他の重要な鳥類

本調査ではサシバ、クマタカ以外の猛禽類（トビ以外）についても記録を行った。その結果は表 4.2.3-14 に示すとおり、対象種であるサシバ、クマタカに加え、ミサゴ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、ノスリの5種が確認された。

表 4.2.3-14 重要な猛禽類の確認状況

科名	種名	2025						2026			重要種選定状況
		4月	5月	6月	7月	8月	12月	1月	2月	3月	
ミサゴ	ミサゴ	1					1				国 RL2020 : NT 三重県 RDB2005 : EN/VU(繁殖/越冬) 三重県 RL2024 : CR 近畿 RDB : ランク 2
タカ	ツミ	1							1		近畿 RDB : ランク 2
	ハイタカ						4	6	5	4	指定なし
	オオタカ	1			1				1	1	国 RL2020 : NT 三重県 RDB2005 : VU 三重県 RL2024 : EN 近畿 RDB : ランク 3
	ノスリ								2	3	指定なし

注) 表中の数字は確認例数を示す。

また、本調査では、定点観察時に定点付近で確認される猛禽類以外の鳥類についても記録を行った。猛禽類の確認結果と合わせた確認種リストは、表 4.2.3-15 に示すとおりであり、合計 14 目 38 科 89 種の鳥類が確認された。このうち、前掲の表 4.2.3-4 に示す選定基準に該当する重要な種として、アオバト、チュウサギ、ホトトギス、ツツドリ、アオゲラ、サンショウクイ等の 45 種が確認された。

(6) 事後調査の結果の検討

a) 検討内容

事後調査の結果の検討は、過去に実施した評価書等（評価書、平成 24～令和 6 年度事後調査報告書）の調査結果との比較により行った。

b) 検討結果

① サシバの繁殖状況等

【繁殖状況】

サシバ調査対象つがいの過年度からの繁殖状況一覧を表 4. 2. 3-16 に、サシバ対象つがいの過年度からの繁殖状況を図 4. 2. 3-7 に示す。

サシバについては、経年的に対象事業実施区域の周辺で複数つがいの繁殖が確認されている。2025 年繁殖期には、8 つがいの生息が確認され、そのうちの 7 つがいにおいて巣立ち幼鳥が確認された。

表 4. 2. 3-16 サシバ対象つがいの過年度からの繁殖状況一覧

繁殖年	KM・NT つがい	YM つがい	TH・HG つがい	NO つがい	NK つがい	OD つがい	SK つがい	事業地内 つがい	繁殖確認つがい数		繁殖 未確認	確認 つがい 数
									巣立ち 確認	巣立ち 未確認		
2010年繁殖期	△	不明	不明	不明					0	1	3	4
2011年繁殖期	◎	◎	△	◎					3	1	0	4
2013年繁殖期	○	×	△	◎					1	2	1	4
2014年繁殖期	◎	×	◎	◎	△				3	1	1	5
2015年繁殖期	◎	×	◎	◎	◎				4	0	1	5
2016年繁殖期	◎	×	◎	△	△				2	2	1	5
2017年繁殖期	◎	◎	△	不明	不明				2	1	2	5
2018年繁殖期	◎	◎	◎	◎	不明	◎			5	0	1	6
2019年繁殖期	◎	◎	◎	◎	◎	◎			6	0	0	6
2020年繁殖期	×	◎	◎	◎	△	◎			4	1	1	6
2021年繁殖期	△	○	◎	◎	×	不明			2	1	3	6
2022年繁殖期	◎	×	◎	◎	×	◎			4	0	2	6
2023年繁殖期	◎	◎	○	◎	×	◎	◎		5	1	1	7
2024年繁殖期	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		7	0	0	7
2025年繁殖期	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	7	0	1	8
平均	—	—	—	—	—	—	—	—	4	1	1	—

注) ◎：巣立ちを確認, ○：孵化までを確認, △：繁殖中断, ×：繁殖せず, 不明：繁殖状況不明

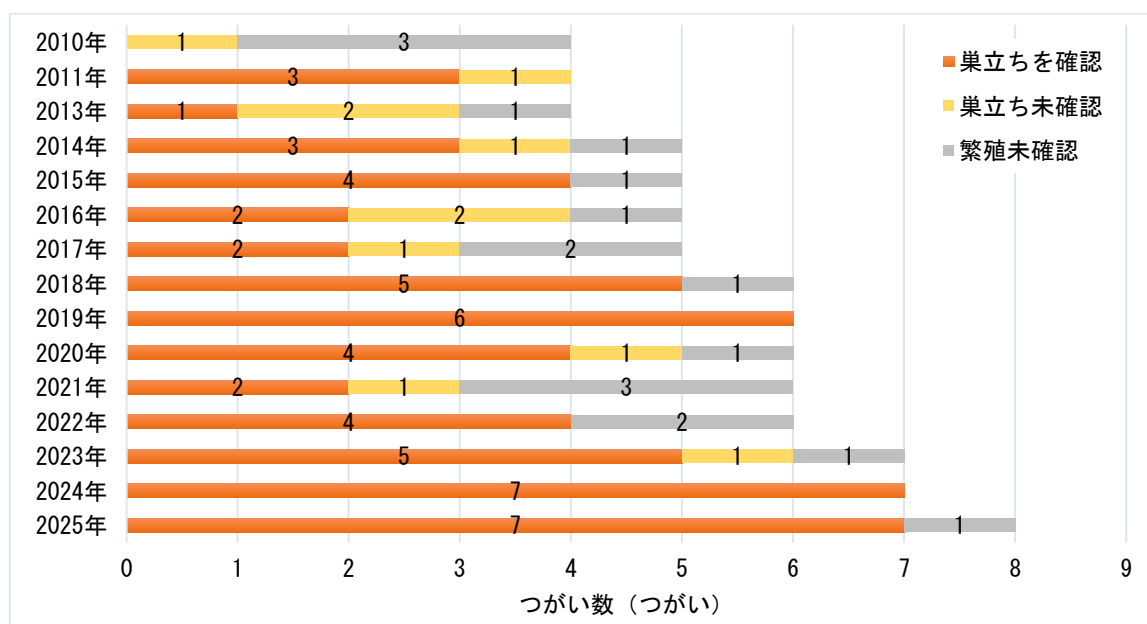


図 4. 2. 3-7 サシバ対象つがいの過年度からの繁殖状況

KM・NT つがいの2010年からの繁殖状況を表4.2.3-17(1)に示す。

KM・NT つがいは、対象事業実施区域北東側の対象事業実施区域に比較的近い場所に生息している。

2010年繁殖期から生息が確認されており、2010年繁殖期から2025年繁殖期のうち、2011年～2012年、2014年～2019年、2022年～2025年に幼鳥の巣立ちが確認されている。

2025年は、既知の営巣地で繁殖を行い、幼鳥の巣立ちが確認された。

表4.2.3-17(1) サシバ対象つがいの過年度からの繁殖状況(その1)

【KM・NT つがい】

繁殖期	調査時期	繁殖成否	判断根拠	巣立雛数	巣立時期	利用営巣木	備考
2010	2010年4月～7月	△	・4,6月に巣材運び、4月に餌運びを確認 ・幼鳥の出現なし	—	—	不明	
2011	2011年4月～7月	◎	・6月に巣内雛3羽、7月に巣立ち幼鳥2羽を確認	2～3	6月下旬～7月上旬	KM1	
2013	2013年4月～7月	○	・6月に巣内雛1羽を確認 ・7月は出現なし	不明	不明	KM1	
2014	2014年4月～8月	◎	・6月に巣立ち幼鳥3羽を確認 ・7月は出現なし	3	6月上旬～中	KM1	
2015	2015年4月～8月	◎	・6月にKM2巣にて巣内雛1羽を確認 ・7月に巣立ち幼鳥1羽を確認	1	6月下旬～7月上旬	KM2	新巣確認
2016	2016年4月～8月	◎	・6月にKM3巣にて巣内雛2羽を確認 ・7月に巣立ち幼鳥2羽を確認	2	6月下旬～7月上旬	KM3	新巣確認
2017	2017年4月～8月	◎	・6月にKM4巣にて巣内雛2羽を確認 ・7月に巣立ち幼鳥2羽を確認	2	6月下旬～7月上旬	KM4	新巣確認
2018	2018年4月～8月	◎	・4月に餌運びを確認 ・7月に巣立ち幼鳥1羽を確認	1	6月下旬～7月上旬	KM5	新巣確認
2019	2019年4月～8月	◎	・4月に餌運びを確認 ・6月にKM6巣を確認 ・7月にKM6巣周辺で巣立ち幼鳥1羽を確認	1	6月下旬～7月上旬	KM6	新巣確認
2020	2020年4月～8月	×	・当該つがいと判断される個体の出現なし	—	—	—	
2021	2021年4月～8月	△	・4月に新営巣地で2個体の鳴き声、とまり、飛翔を確認、その後出現が減少 ・7月にKM7巣を確認 ・幼鳥の出現なし	—	—	KM7	新巣確認
2022	2022年4月～8月	◎	・6月にKM8巣にて幼鳥2羽を確認 ・7月に巣立ち幼鳥2羽の鳴き声を確認	2	6月下旬～7月上旬	KM8	新巣確認
2023	2023年4月～8月	◎	・5月にKM8巣にて抱卵もしくは抱雛する成鳥を確認 ・6月にKM8巣にて幼鳥3羽を確認 ・7月に巣立ち幼鳥1羽の飛翔、2羽の鳴き声を確認	3	6月下旬～7月上旬	KM8	
2024	2024年4～7月	◎	・6月にKM8巣にて幼鳥1羽を確認	1	7月上旬以降	KM8	
2025	2025年4月～8月	◎	・5月にKM8巣にて抱卵もしくは抱雛する成鳥を確認 ・6月にKM8巣にて幼鳥2羽を確認 ・7月に営巣木にとまる巣立ち幼鳥1羽を確認	1	7月上旬	KM8	

注1) 繁殖成否 ◎：巣立ちを確認, ○：孵化までを確認, △：繁殖中断, ×：繁殖せず

注2) 2012年繁殖期は調査を実施していない。

注3) 巣立ち時期 上：上旬, 中：中旬, 下：下旬

YM つがいの 2010 年からの繁殖状況を表 4.2.3-17 (2) に示す。

YM つがいは、対象事業実施区域から北東に離れた場所に生息している。

2011 年繁殖期より生息が確認されており、2011 年繁殖期から 2025 年繁殖期のうち、2011 年、2017 年～2020 年、2023 年～2024 年に幼鳥の巣立ちが確認されている。

2025 年は、4 月から 6 月頃まで既知の営巣地付近でディスプレイ飛翔や餌運び、既知営巣地付近でのとまりが確認されていたものの、7 月以降は繁殖に関する行動の確認はなく、繁殖を途中で中断したものと考えられる。

表 4.2.3-17(2) サシバ対象つがいの過年度からの繁殖状況(その 2)

【YM つがい】

繁殖期	調査時期	繁殖成否	判断根拠	巣立雛数	巣立時期	利用営巣木	備考
2010	2010年4月 ～7月	不明	—	—	—	—	
2011	2011年4月 ～7月	◎	・落鳥した幼鳥、その他幼鳥の鳴き声を確認	2 以上	不明	YM1	
2013	2013年4月 ～7月	×	・当該つがいと判断される個体の出現なし	—	—	—	
2014	2014年4月 ～8月	×	・当該つがいと判断される個体の出現なし	—	—	—	
2015	2015年4月 ～8月	×	・当該つがいと判断される個体の出現なし	—	—	—	
2016	2016年4月 ～8月	×	・当該つがいと判断される個体の出現なし	—	—	—	
2017	2017年4月 ～8月	◎	・6月にYM2巣や餌運びを確認 ・7月に巣立ち幼鳥2羽を確認	2	6月下 ～7月上	YM2	新巣確認
2018	2018年4月 ～8月	◎	・5月に餌運びを確認 ・8月に巣立ち幼鳥1羽を確認	2	6月下 ～7月上	YM3	新巣確認
2019	2019年4月 ～8月	◎	・5,6月に餌運びを確認 ・6月にYM4巣を確認 ・7月上旬に巣内雛2羽、7月下旬に巣立ち幼鳥1羽を確認	1	6月下 ～7月上	YM4	新巣確認
2020	2020年4月 ～8月	◎	・5,7月に餌運びを確認 ・7月に巣立ち幼鳥1羽を確認	1	6月下 ～7月上	YM5	新巣確認
2021	2021年4月 ～8月	○	・6月にYM4巣下で落鳥した幼鳥を確認 ・巣立ち幼鳥は未確認	—	—	YM4	
2022	2022年4月 ～8月	×	・当該つがいと判断される個体の出現なし	—	—	—	
2023	2023年4月 ～8月	◎	・7月に既知の営巣地から八手俣川を挟んで対岸の林冠にとまる幼鳥2羽を確認	2	6月下 ～7月上	不明	
2024	2024年4～7月	◎	・6月にYM6巣にて幼鳥2羽を確認	2	7月上 以降	YM6	新巣確認
2025	2025年4月 ～8月	△	・4月にディスプレイを確認 ・5月に餌運びを確認 ・7月以降、繁殖に関する行動は未確認	—	—	—	

注 1) 繁殖成否 ◎：巣立ちを確認, ○：孵化までを確認, △：繁殖中断, ×：繁殖せず, 不明：繁殖状況不明

注 2) 2012 年繁殖期は調査を実施していない。

注 3) 巣立ち時期 上：上旬, 中：中旬, 下：下旬

TH・HG つがいの2010年からの繁殖状況を表4.2.3-17(3)に示す。
 TH・HG つがいは、対象事業実施区域から東に離れた場所に生息している。
 2011年繁殖期より生息が確認されており、2011年繁殖期から2025年繁殖期のうち、2014年～2016年、2018年～2022年、2024年～2025年に幼鳥の巣立ちが確認されている。
 2025年は、新規の営巣地で繁殖し、幼鳥の巣立ちが確認された。

表4.2.3-17(3) サシバ対象つがいの過年度からの繁殖状況(その3)

【TH・HG つがい】

繁殖期	調査時期	繁殖成否	判断根拠	巣立雛数	巣立時期	利用営巣木	備考
2010	2010年4月～7月	不明	—	—	—	—	
2011	2011年4月～7月	△	・6月に新しい巣材確認 ・幼鳥や残渣、糞などは未確認	—	—	TH1	
2013	2013年4月～7月	△	・4～5月に雌雄の餌運びや交尾を確認 ・6月に青葉が積まれた巣を確認したが、以降雛の姿は無く、成鳥の出現なし	—	—	TH2	
2014	2014年4月～8月	◎	・6月に巣立ち幼鳥1羽を確認	1	6月上～中	TH2	
2015	2015年4月～8月	◎	・7月にHG1巣を確認。付近で巣立ち幼鳥2羽を確認	2	7月上	HG1	新巣確認
2016	2016年4月～8月	◎	・6月にHG1巣にて巣内雛2羽を確認 ・7月に巣立ち幼鳥1羽を確認	1	6月下～7月上	HG1	
2017	2017年4月～8月	△	・6月に巣が落ちているところを確認 ・卵の殻が一緒に落ちていたことから繁殖途中で失敗したものと推定	—	—	HG1	
2018	2018年4月～8月	◎	・6月にHG1巣内に幼鳥1羽を確認 ・7月に巣立ち幼鳥2羽を確認	2	6月下～7月上	HG1	
2019	2019年4月～8月	◎	・6月にHG1巣内で雛1羽を確認 ・7月に巣立ち幼鳥2羽を確認	2	6月下～7月上	HG1	
2020	2020年4月～8月	◎	・4月に防衛行動を確認 ・7月に巣立ち幼鳥1羽を確認	1	6月下～7月上	不明	
2021	2021年4月～8月	◎	・6月にHG1巣内で雛2羽を確認 ・7月に巣立ち幼鳥2羽を確認	2	6月下～7月上	HG1	
2022	2022年4月～8月	◎	・4月に餌運びを確認 ・6月にHG1巣内で幼鳥1羽を確認 ・7月に巣立ち幼鳥1羽を確認	1	6月下～7月上	HG1	
2023	2023年4月～8月	○	・6月にHG1巣内で幼鳥1羽を確認 ・7月にHG1巣内で幼鳥2羽を確認 ・巣立ち幼鳥は未確認	—	7月上	HG1	
2024	2024年4～7月	◎	・6月にHG1巣内で幼鳥3羽を確認	3	7月上以降	HG1	
2025	2025年4月～8月	◎	・7月上旬にTH3巣を確認。TH3巣内で幼鳥2羽を確認 ・7月下旬に巣立ち幼鳥2羽を確認	2	7月下	TH3	新巣確認

注1) 繁殖成否 ◎：巣立ちを確認, ○：孵化までを確認, △：繁殖中断, ×：繁殖せず

注2) 2012年繁殖期は調査を実施していない。

注3) 巣立ち時期 上：上旬, 中：中旬, 下：下旬

NO つがいの 2010 年からの繁殖状況を表 4.2.3-17 (4) に示す。

NO つがいは、対象事業実施区域から南西に離れた場所に生息している。

2011 年繁殖期より生息が確認されており、2011 年繁殖期から 2025 年繁殖期のうち、2011 年～2015 年、2018 年～2025 年に幼鳥の巣立ちが確認されている。

2025 年は、営巣地は不明であるが、既知の営巣地付近で巣立ち幼鳥が確認されており、既知の営巣地付近で繁殖したと考えられる。

表 4.2.3-17(4) サシバ対象つがいの過年度からの繁殖状況(その 4)

【NO つがい】

繁殖期	調査時期	繁殖成否	判断根拠	巣立雛数	巣立時期	利用営巣木	備考
2010	2010年4月 ～7月	不明	—	—	—	—	
2011	2011年4月 ～7月	◎	・7月に巣立ち幼鳥1羽を確認	1	不明	不明	
2013	2013年4月 ～7月	◎	・7月に巣立ち幼鳥2羽を確認	2	—	N01	クマツバA1巣と同じ
2014	2014年4月 ～8月	◎	・6月に巣立ち幼鳥2羽を確認 ・7月に巣立ち幼鳥3羽を確認	3	6月上 ～中	N01	同上
2015	2015年4月 ～8月	◎	・7月にN02巣を確認。付近で巣立ち幼鳥1羽を確認	1	6月下 ～7月上	N02	新巣確認
2016	2016年4月 ～8月	△	・5月にN01、N02巣の営巣林が伐採により消失していることを確認 ・5月にN01巣北側エリアへの餌運びを確認し、営巣地が移動したと推定されたが、6月にはそのエリアまで伐採が進んでいることを確認	—	—	不明	
2017	2017年4月 ～8月	不明	・繁殖地周辺でサシバの飛翔はあるが、繁殖行動や巣は未確認	—	—	不明	
2018	2018年4月 ～8月	◎	・7月にN03巣を確認、付近で巣立ち幼鳥3羽を確認	3	6月下 ～7月上	N03	新巣確認
2019	2019年4月 ～8月	◎	・6,7月に餌運びを確認 ・6月にN04巣、7月にN05巣を確認 ・7月にN05巣周辺で巣立ち幼鳥2羽を確認	2	6月下 ～7月上	N05	新巣確認
2020	2020年4月 ～8月	◎	・5,6月に餌運びを確認 ・6月にN06巣を確認 ・7月に巣立ち幼鳥2羽を確認	2	6月下 ～7月上	N06	新巣確認
2021	2021年4月 ～8月	◎	・6月にN07巣にて幼鳥1羽を確認 ・7月に巣立ち幼鳥1羽を確認	1	6月下 ～7月上	N07	新巣確認
2022	2022年4月 ～8月	◎	・6月にN08巣にて幼鳥2羽を確認 ・7月に巣立ち幼鳥1羽を確認	1～2	6月下 ～7月上	N08	新巣確認
2023	2023年4月 ～8月	◎	・5月にN08巣にて抱卵または抱雛する成鳥を確認 ・6月にN08巣内で幼鳥1羽を確認。林内にて巣立ち幼鳥1羽を確認	1	6月下	N08	
2024	2024年4～7月	◎	・7月にN09巣内及び林内で幼鳥2羽を確認	2	7月上 以降	N09	新巣確認
2025	2025年4月 ～8月	◎	・7月に既知の営巣林で幼鳥1羽のとまりを確認	1	6月下～ 7月上	不明	

注 1) 繁殖成否 ◎：巣立ちを確認, △：繁殖中断, 不明：繁殖状況不明

注 2) 2012 年繁殖期は調査を実施していない。

注 3) 巣立ち時期 上：上旬, 中：中旬, 下：下旬

注 4) 2010 年に生息が確認され、2011 年から調査対象となったつがい

NK つがいの 2010 年からの繁殖状況を表 4.2.3-17 (5) に示す。

NK つがいは、対象事業実施区域の南西側に生息している。

2014 年繁殖期より生息が確認されており、2014 年繁殖期から 2025 年繁殖期のうち、2015 年、2019 年、2024 年、2025 年に幼鳥の巣立ちが確認されている。

2025 年は営巣木不明であるが既知の営巣地から東に 200m 程離れた、八手俣川挟んで対岸の谷部斜面において幼鳥の巣立ちが確認された。

表 4.2.3-17(5) サシバ対象つがいの過年度からの繁殖状況(その 5)

【NK つがい】

繁殖期	調査時期	繁殖成否	判断根拠	巣立雛数	巣立時期	利用営巣木	備考
2010	2010年4月 ～7月	—	—	—	—	—	
2011	2011年4月 ～7月	—	—	—	—	—	
2013	2013年4月 ～7月	—	—	—	—	—	
2014	2014年4月 ～8月	△	・5月にカラスに襲われているつがいを確認、付近で青葉や羽毛のついた巣が確認されたが、雛や卵は未確認	—	—	NK1	
2015	2015年4月 ～8月	◎	・6月に巣立ち幼鳥1羽を確認 ・7月に幼鳥確認場所付近で新たにNK2巣を確認	1	6月上 ～中	NK2	新巣確認
2016	2016年4月 ～8月	△	・5月にNK2巣から警戒声を確認 ・6月にNK2巣の下で雛のものと推定される綿羽の散乱(落鳥)を確認	—	—	NK2	
2017	2017年4月 ～8月	不明	・繁殖地周辺でサシバの飛翔はあるが、繁殖行動や巣は未確認	—	—	不明	
2018	2018年4月 ～8月	不明	・4月に餌運びを確認 ・5月に防衛行動を確認 ・6月の踏査時に営巣木は林業による伐採で消失	—	—	—	
2019	2019年4月 ～8月	◎	・4月に餌運びを確認 ・6月にNK3巣、7月にNK4巣を確認 ・7月にNK4巣内で雛を2羽、巣周辺で巣立ち幼鳥を1羽確認	1	7月上 ～中	NK4	新巣確認
2020	2020年4月 ～8月	△	・4月にディスプレイを確認	—	—	—	
2021	2021年4月 ～8月	×	・当該つがいと判断される個体の出現なし	—	—	—	
2022	2022年4月 ～8月	×	・5月に営巣地付近でつがいの飛翔を確認したが、繁殖を示唆する行動なし	—	—	—	
2023	2023年4月 ～8月	×	・4月にディスプレイを確認	—	—	—	
2024	2024年4～7月	◎	・7月にNK5巣近くの樹木で幼鳥1羽を確認	1	7月上	NK5	新巣確認
2025	2025年4月 ～8月	◎	・7月に既知の営巣地から八手俣川を挟んで対岸に幼鳥1羽のとまり、2羽での飛翔を確認	2	7月上	不明	

注 1) 繁殖成否 ◎：巣立ちを確認, △：繁殖中断, ×：繁殖せず, 不明：繁殖状況不明

注 2) 2012 年繁殖期は調査を実施していない。

注 3) 巣立ち時期 上：上旬, 中：中旬, 下：下旬

注 4) 2014 年から調査対象となったつがい

OD つがいの 2010 年からの繁殖状況を表 4.2.3-17 (6) に示す。
 OD つがいは、対象事業実施区域から南西に離れた場所に生息している。
 2018 年繁殖期より生息が確認されており、2018 年繁殖期から 2025 年繁殖期のうち、2018 年～
 2020 年、2022 年～2025 年に幼鳥の巣立ちが確認されている。
 2025 年には、既知の営巣地で繁殖を行い、幼鳥の巣立ちが確認された。

表 4.2.3-17(6) サシバ対象つがいの過年度からの繁殖状況(その 6)

【OD つがい】

繁殖期	調査時期	繁殖成否	判断根拠	巣立雛数	巣立時期	利用営巣木	備考
2010	2010年4月 ～7月	—	—	—	—	—	
2011	2011年4月 ～7月	—	—	—	—	—	
2013	2013年4月 ～7月	—	—	—	—	—	
2014	2014年4月 ～8月	—	—	—	—	—	
2015	2015年4月 ～8月	—	—	—	—	—	
2016	2016年4月 ～8月	—	—	—	—	—	
2017	2017年4月 ～8月	—	—	—	—	—	
2018	2018年4月 ～8月	◎	・5月に交尾を確認 ・7月に幼鳥3羽の飛翔、とまりを確認	3	7月上～ 下	OD1	新巣確認
2019	2019年4月 ～8月	◎	・6月に餌運びを確認 ・7月に幼鳥2羽の飛翔、とまりを確認	2	7月上～ 下	OD2	新巣確認
2020	2020年4月 ～8月	◎	・4月につれだち飛翔を確認 ・6,7月に巣立ち幼鳥1羽を確認	1	6月中～ 下	不明	
2021	2021年4月 ～8月	不明	・5月につれだち飛翔を確認 ・既知の営巣地の利用なし ・営巣地を対象事業実施区域より離れる西側に移動した可能性あり	—	—	—	
2022	2022年4月 ～8月	◎	・6月に餌運びを確認 ・7月に巣立ち幼鳥1羽を確認	1	6月中～ 7月上	不明	
2023	2023年4月 ～8月	◎	・6月に餌運びを確認 ・7月に巣立ち幼鳥1羽の飛翔、幼鳥の鳴き声を確認	1以上	6月中～ 7月上	不明	
2024	2024年4～7月	◎	・7月にOD3巣及び林内で幼鳥2羽を確認	2	7月上	OD3	新巣確認
2025	2025年4月 ～8月	◎	・6月にOD3巣内に青葉の搬入痕跡を確認 ・7月に営巣林内で巣立ち幼鳥1羽のとまりを確認	1	7月上	OD3	

注 1) 繁殖成否 ◎：巣立ちを確認、不明：繁殖状況不明 —：未確認

注 2) 2012 年繁殖期は調査を実施していない。

注 3) 巣立ち時期 上：上旬, 中：中旬, 下：下旬

注 4) 2018 年から調査対象となったつがい

SK つがいの 2010 年からの繁殖状況を表 4.2.3-17 (7) に示す。
 SK つがいは、対象事業実施区域から南に離れた場所に生息している。
 2023 年繁殖期より生息が確認されており、2023 年繁殖期から 2025 年繁殖期のすべての繁殖期で、幼鳥の巣立ちが確認されている。
 2025 年は営巣木は不明であるが、既知の営巣地から南東に 300m 程離れた場所で幼鳥の巣立ちが確認された。

表 4.2.3-17(7) サシバ対象つがいの過年度からの繁殖状況(その 7)

【SK つがい】

繁殖期	調査時期	繁殖成否	判断根拠	巣立雛数	巣立時期	利用営巣木	備考
2010	2010年4月 ～7月	—	—	—	—	—	
2011	2011年4月 ～7月	—	—	—	—	—	
2013	2013年4月 ～7月	—	—	—	—	—	
2014	2014年4月 ～8月	—	—	—	—	—	
2015	2015年4月 ～8月	—	—	—	—	—	
2016	2016年4月 ～8月	—	—	—	—	—	
2017	2017年4月 ～8月	—	—	—	—	—	
2018	2018年4月 ～8月	—	—	—	—	—	
2019	2019年4月 ～8月	—	—	—	—	—	
2020	2020年4月 ～8月	—	—	—	—	—	
2021	2021年4月 ～8月	—	—	—	—	—	
2022	2022年4月 ～8月	—	—	—	—	—	
2023	2023年4月 ～8月	◎	・6月に餌運びを確認。SK1巣内で幼鳥1羽を確認。林内で巣立ち後の幼鳥1羽の鳴き声を確認 ・7月に巣立ち幼鳥1羽の飛翔を確認	1以上	6月中～7月上	SK1	新巣確認
2024	2024年4～7月	◎	・7月にSK1巣内及び林内で幼鳥2羽を確認	2	7月上	SK1	
2025	2025年4月 ～8月	◎	・7月に既知の営巣地から南東に300mほど離れた林縁で巣立ち幼鳥2羽のとまり、飛翔を確認	2	7月上	不明	

注 1) 繁殖成否 ◎：巣立ちを確認，—：未確認

注 2) 2012 年繁殖期は調査を実施していない。

注 3) 巣立ち時期 上：上旬, 中：中旬, 下：下旬

注 4) 2023 年から調査対象となったつがい

事業地内つがいの2010年からの繁殖状況を表4.2.3-17(8)に示す。
 事業地内つがいは、対象事業実施区域に生息している。
 2025年繁殖期の調査で新たに繁殖が確認されたつがいである。
 2025年繁殖期は、営巣木は不明であるが、対象事業実施区域内の防災調整池付近で雄成鳥の餌運びや巣立ち幼鳥の飛翔やとまりが確認されており、防災調整池付近で営巣したと考えられる。

表4.2.3-17(8) サシバ対象つがいの過年度からの繁殖状況(その8)

【事業地内つがい】

繁殖期	調査時期	繁殖成否	判断根拠	巣立雛数	巣立時期	利用営巣木	備考
2010	2010年4月 ～7月	—	—	—	—	—	
2011	2011年4月 ～7月	—	—	—	—	—	
2013	2013年4月 ～7月	—	—	—	—	—	
2014	2014年4月 ～8月	—	—	—	—	—	
2015	2015年4月 ～8月	—	—	—	—	—	
2016	2016年4月 ～8月	—	—	—	—	—	
2017	2017年4月 ～8月	—	—	—	—	—	
2018	2018年4月 ～8月	—	—	—	—	—	
2019	2019年4月 ～8月	—	—	—	—	—	
2020	2020年4月 ～8月	—	—	—	—	—	
2021	2021年4月 ～8月	—	—	—	—	—	
2022	2022年4月 ～8月	—	—	—	—	—	
2023	2023年4月 ～8月	—	—	—	—	—	
2024	2024年4～ 7月	—	—	—	—	—	
2025	2025年4月 ～8月	◎	・7月に対象事業実施区域内の防災調整池付近で巣立ち幼鳥2羽のとまり、飛翔を確認	2	7月下	不明	

- 注1) 繁殖成否 ◎：巣立ちを確認, —：未確認
 注2) 2012年繁殖期は調査を実施していない。
 注3) 巣立ち時期 上：上旬, 中：中旬, 下：下旬
 注4) 2025年から調査対象となったつがい

【行動圏の内部構造】

サシバの行動圏については、「サシバの保護の進め方」（環境省、2013年）において、繁殖中のサシバの行動圏は高利用域とほぼ重複するとされているため、事後調査では全行動を包括する範囲を行動圏（高利用域）として整理することとした。

各つがいについて推定された行動圏は表 4.2.3-18 及び図 4.2.3-8 に示すとおりである。

KM・NT つがいは、対象事業実施区域の北東側近隣に行動圏が位置する。行動圏の位置や面積は例年と大きな違いはなかった。また、行動圏は TH・HG つがいと重複していた。

YM つがいは、対象事業実施区域の北東側遠方に行動圏が位置する。2025 年繁殖期は、7 月以降繁殖行動が確認されなかった。ディスプレイ飛翔や餌運びが確認されたことから、行動圏を推定した。行動圏の位置は例年と同様であったが、面積は大きかった。

TH・HG つがいは、対象事業実施区域の東側に行動圏が位置する。行動圏の位置や面積は例年とほぼ同じであった。また、行動圏は KM・NT つがいと重複していた。

NO つがいは、対象事業実施区域の南西側遠方に行動圏が位置する。行動圏の位置は例年と大きな違いはなかったが面積は小さくなった。また、後述する OD つがい、SK つがいと行動圏が隣接、重複していた。

NK つがいは、対象事業実施区域の東側に行動圏が位置する。行動圏の位置に大きな違いはなかったが、面積は例年と比べ小さくなった。

OD つがいは、対象事業実施区域の南西側遠方に行動圏が位置する。行動圏の位置に大きな違いはなかったが、面積は過去最も小さくなった。また、行動圏は NO つがいと重複していた。

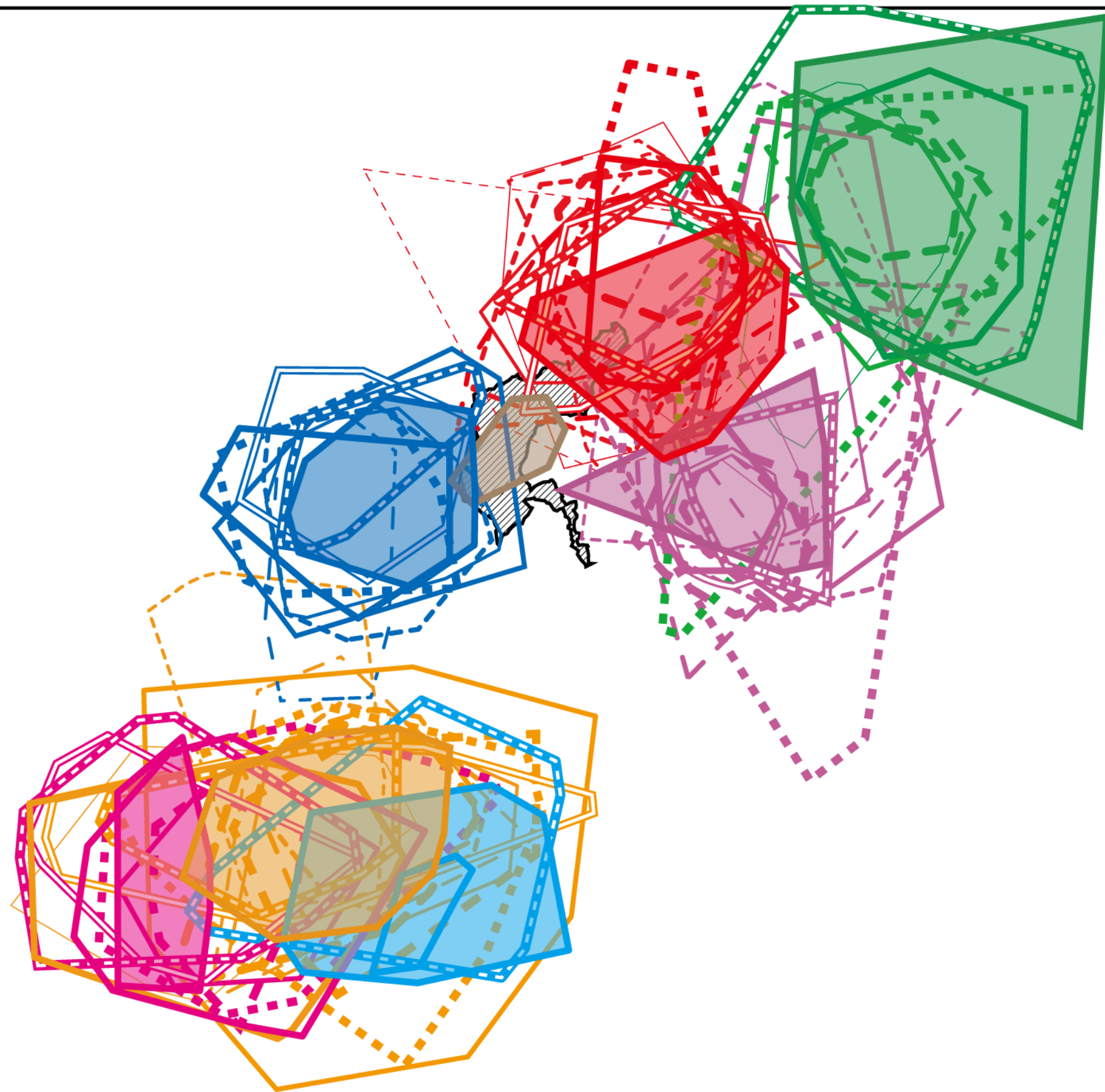
SK つがいは、対象事業実施区域の南西側遠方に行動圏が位置する。行動圏の位置や面積は例年同様であった。行動圏は NO つがいと重複していた。


事業地内つがいは、対象事業実施区域内に行動圏が位置する。KM つがい、NK つがいと行動圏が近接しており、特に NK つがいは、処理施設や埋め立て地付近が行動圏の境界になっていると推定される。

表 4.2.3-18 サシバ行動圏（面積：ha）の推移

つがい	KM・NT つがい	YMつがい	TH・HG つがい	NOつがい	NKつがい	ODつがい	SKつがい	事業地内 つがい
2010年繁殖期	213.7	—	—	—	—	—	—	—
2011年繁殖期	170.5	139.4	53.8	179.4	—	—	—	—
2013年繁殖期	109.8	—	282.6	161.5	—	—	—	—
2014年繁殖期	113.5	—	165.4	158.7	89.7	—	—	—
2015年繁殖期	93.7	—	138.9	125.8	92.9	—	—	—
2016年繁殖期	135.2	—	243.8	89.2	109.7	—	—	—
2017年繁殖期	131.7	104.9	313.8	—	97.9	—	—	—
2018年繁殖期	96.6	98.3	231.8	401.6	147.9	96.4	—	—
2019年繁殖期	110.1	305.3	225.7	245.2	95.0	201.2	—	—
2020年繁殖期	—	78.9	58.0	146.2	—	65.4	—	—
2021年繁殖期	66.5	45.5	32.2	138.6	—	—	—	—
2022年繁殖期	93.8	—	31.8	176.8	93.8	125.3	—	—
2023年繁殖期	77.6	281.4	62.2	95.5	56.1	170.1	179.9	—
2024年繁殖期	82.2	136.2	40.5	208.4	89.2	191.9	16.8	—
2025年繁殖期	108.0	264.0	78.3	115.9	73.7	53.6	123.6	18.2
平均	114.5	161.5	139.9	172.5	94.6	129.1	106.7	18.2

注) 2010年繁殖期～2013年繁殖期、2024年繁殖期は、それぞれ4月～7月に調査を実施
2014年繁殖期～2023年繁殖期、2025年繁殖期は、それぞれ4月～8月に調査を実施



凡例
 : 対象事業実施区域

サシバ各つがいの行動圏

-  : KM・NT
-  : YM
-  : TH・HG
-  : NO
-  : NK
-  : OD
-  : SK
-  : 事業地内

各年の行動圏

-  : 2010年繁殖期 (評価書)
-  : 2011年繁殖期 (評価書)
-  : 2013年繁殖期 (H25事後調査)
-  : 2014年繁殖期 (H26事後調査)
-  : 2015年繁殖期 (H27事後調査)
-  : 2016年繁殖期 (H28事後調査)
-  : 2017年繁殖期 (H29事後調査)
-  : 2018年繁殖期 (H30事後調査)
-  : 2019年繁殖期 (H31事後調査)
-  : 2020年繁殖期 (R2事後調査)
-  : 2021年繁殖期 (R3事後調査)
-  : 2022年繁殖期 (R4事後調査)
-  : 2023年繁殖期 (R5事後調査)
-  : 2024年繁殖期 (R6事後調査)
-  : 2025年繁殖期 (R7事後調査)

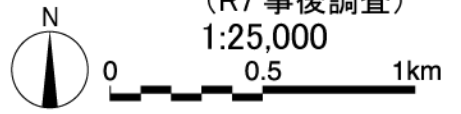


図 4.2.3-8 サシバの行動圏

【ハンティングエリア】

サシバの全ての個体を対象に、探餌や餌運びなどの行動を基にして調査地域全体のハンティングエリアを整理した。サシバのハンティングエリアについては図 4.2.3-9 に示すとおりである。2025 年繁殖期は、営巣地近隣や対象事業実施区域近隣でハンティングエリアが確認された。

調査時に確認されたサシバの餌生物を表 4.2.3-19 に示す。2025 年繁殖期では餌生物の確認数は例年程度で、ヘビ類、トカゲ類、カエル類、昆虫類であった。本調査地に生息するサシバは主に山間地を生息環境として利用しており、林業による伐採跡地の開けた環境でハンティングを行う姿が確認された。また、水田でのハンティングや飛翔しながら昆虫をハンティングする様子が確認された。営巣林内に砂防堰堤や湿地がある場合はカエル類を捕獲していると考えられるが、林内での行動のため定点観察では捉えにくく、上記の伐採跡地に生息するヘビ類やトカゲ類の確認事例が多いと考えられる。

表 4.2.3-19 サシバの餌生物の状況（種別確認回数）

繁殖期	ヘビ類	トカゲ類	カエル類	小型哺乳類	昆虫類	不明	合計
2013 年繁殖期	1	6	1	0	0	4	12
2014 年繁殖期	1	4	1	0	1	0	7
2015 年繁殖期	4	6	1	1	0	0	12
2016 年繁殖期	0	1	1	0	2	0	4
2017 年繁殖期	0	0	0	2	0	3	5
2018 年繁殖期	1	3	0	0	0	0	4
2019 年繁殖期	1	4	0	0	0	5	10
2020 年繁殖期	0	2	1	0	0	3	6
2021 年繁殖期	0	1	1	0	0	1	3
2022 年繁殖期	2	2	0	0	0	5	9
2023 年繁殖期	2	1	0	1	0	4	8
2024 年繁殖期	5	4	1	1	1	2	14
2025 年繁殖期	2	1	2	0	3	0	8
合計	19	35	9	5	7	27	102

注) 2010 年繁殖期～2013 年繁殖期、2024 年繁殖期は、それぞれ 4 月～7 月に調査を実施
2014 年繁殖期～2023 年繁殖期、2025 年繁殖期は、それぞれ 4 月～8 月に調査を実施

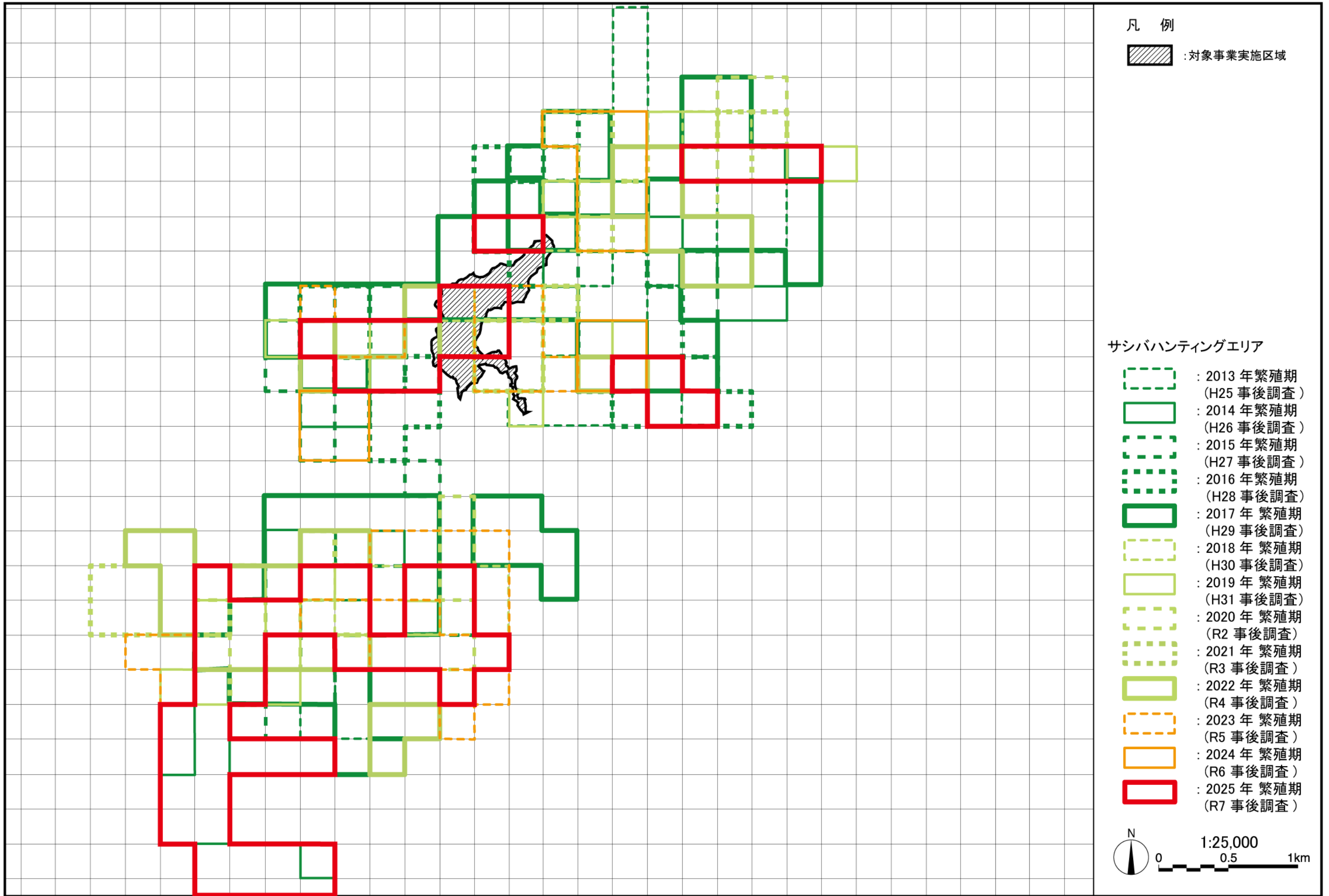


図 4. 2. 3-9 サシバのハンティングエリア

② クマタカの繁殖状況等

【繁殖状況】

クマタカの過年度からの繁殖状況を表 4. 2. 3-20 (1) 及び (2) に示す。なお、事後調査は A つがいを対象としているが、隣接つがいである B つがいについても参考として整理した。

・ A つがい

一部推定を含むものの、2009-2010 年繁殖期には繁殖は行われず、2010-2011 年繁殖期には繁殖中断していたが、2011-2012 年繁殖期には調査開始後初めて幼鳥の巣立ちが確認されている。その後の 2012-2013 年繁殖期は幼鳥の巣外育雛期間であったため、繁殖は行われなかった。

2013-2014 年繁殖期は造巣、2014-2015 年繁殖期では造巣、抱卵、2015-2016 年繁殖期では造巣までの繁殖活動が確認されたが、繁殖成功には至らなかった。

2016-2017 年繁殖期には、3 月に交尾、造巣行動が確認されていたが、4 月以降では目立った繁殖活動がみられなくなり、7 月の営巣地踏査時に卵の殻が確認されたものの、幼鳥などが確認されなかったことから繁殖を中断したものと推定された。

2017-2018 年繁殖期から 2021-2022 年繁殖期も、2 月～3 月頃にはディスプレイ飛翔や交尾を確認するものの、4 月以降は目立った繁殖活動がみられず、幼鳥の確認もないことから、繁殖を中断したと考えられる状況が続いた。

2022-2023 年繁殖期についても同様で、3 月までの調査で雌雄 2 個体での飛翔や同じ位置へのとまりが確認されたものの、4 月以降は繁殖に関する行動の確認がなく、繁殖を中断したものと推定される。

2023-2024 年繁殖期は、繁殖期を通して縄張り誇示と推測されるディスプレイ飛翔が確認されたものの、餌運びなどの顕著な繁殖活動はみられず、幼鳥の確認もなかったことから、繁殖に至らなかったものと推定される。

2024-2025 年繁殖期は、2 月までに既知の営巣地から 1 km 以上南西に離れたエリアでつがいの並びとまりの繁殖行動がみられたが、3 月に当該エリアでの出現はなかった。3 月以降、繁殖行動は確認されなかった。一方で、2026 年 2 月調査及び 3 月調査時に、A1 巣（落巣）周辺で 2024-2025 年繁殖期生まれの幼鳥の飛翔、とまりが確認された。付近では成鳥雄及び成鳥雌の飛翔も確認されており、2024-2025 年繁殖期生まれの幼鳥の巣外育雛が行われていると推定される。

・ B つがい

過去の調査において繁殖成功が確認されていなかったが、2013-2014 年繁殖期に初めて繁殖成功が確認された。翌 2014-2015 年繁殖期は前年生まれの幼鳥が営巣地付近で確認されており、巣の使用痕跡もみられなかったことから、繁殖を行わず、幼鳥の巣外育雛が継続されているものと推定された。

その後も、2～3 年に 1 回の頻度で繁殖に成功しており、2016-2017 年繁殖期、2018-2019 年繁殖期、2020-2021 年繁殖期に繁殖に成功した。

2022-2023 年繁殖期は、B1 巣付近で成鳥の飛翔を継続的に確認した。B1 巣外に卵殻や古い骨がみられるなど、巣を利用しかけた痕跡はあったが、繁殖はしていないとみられ、繁殖を途中で中断したと推定される。

2023-2024 年繁殖期は、繁殖期を通して B1 巣周辺で縄張り誇示と推測されるディスプレイ飛翔が確認されたものの、餌運びなどの顕著な繁殖活動はみられず、幼鳥の確認がなかったことから、繁殖に至らなかったものと推定される。

2024-2025 年繁殖期は、B1 巣周辺で繁殖つがいと推測される成鳥 2 個体の生息が確認され、8 月には B1 巣の利用痕跡（巣材の搬入痕跡、巣周辺の糞痕や食痕）がみられた。また、B1 巣の周辺で成鳥と巣立ち幼鳥の鳴きかわしが確認された。2025 年 12 月から 2026 年 3 月調査時には B1 巣周辺にて幼鳥の飛翔、とまりが確認された。成鳥の目立ったディスプレイ飛翔は確認されず、幼鳥の巣外育雛を継続していると推定される。

表 4.2.3-20(1) クマタカの過年度からの繁殖状況(その1)

【A つがい】

繁殖期	調査時期	繁殖成否	判断根拠	巣立雛数	巣立時期	利用営巣木	備考
2009-2010	2009年11月～2010年7月	×	・12月に交尾を確認したものの、その後繁殖に関わる行動は未確認	—	—	—	
2010-2011	2010年11月～2011年7月	△	・1～3月に求愛行動、5月に雌成鳥の長時間のとまりを確認 ・7月にA1巣内で散乱した幼鳥の綿羽を確認	—	—	A1	
2011-2012	調査未実施	◎ (推定)	・(2012-2013年繁殖期調査結果より推定。)	1	不明	不明	
2012-2013	2013年1月～2013年7月	×	・2、3月に前年生まれの幼鳥1羽を頻繁に確認	—	—	—	
2013-2014	2013年11月～2014年8月	△	・2、3月にA2巣への巣材運びを確認 ・4月以降、目立った繁殖に関わる行動は未確認	—	—	A2	
2014-2015	2014年12月～2015年3月	△	・2、3月に雌成鳥がA2巣上で巣材を整える行動を確認 ・5/1まで抱卵行動が確認されていたが、5/13時点で抱卵中止を確認	—	—	A2	
2015-2016	2015年12月～2016年8月	△	・2、3月に交尾行動、3月にA2巣で造巣行動を確認 ・4月以降、目立った繁殖に関わる行動は未確認	—	—	A2	
2016-2017	2016年12月～2017年8月	△	・3月に交尾行動、A2巣で造巣行動を確認 ・4月以降、目立った繁殖に関わる行動は確認されず、卵の殻が落ちていたことから繁殖は中断されたと推定	—	—	A2	
2017-2018	2017年12月～2018年8月	△	・2月に交尾行動、2月、3月にA2巣で造巣行動を確認 ・4月以降、繁殖に関わる目立つ行動は未確認	—	—	A2	
2018-2019	2018年12月～2019年8月	△	・12月にA2巣付近で誇示とまりを確認 ・3月にV字ディスプレイ、つかかりディスプレイを確認 ・4月以降、繁殖に関わる目立つ行動は未確認	—	—	A2	
2019-2020	2019年12月～2020年8月	△	・12月～3月に、つかかりディスプレイ、つれだち飛翔、並びとまり、V字ディスプレイ、波状ディスプレイを確認 ・4月以降、繁殖に関わる目立つ行動は未確認 ・新たな巣の探索を行ったが未確認	—	—	—	
2020-2021	2020年12月～2021年8月	△	・12月にV字ディスプレイ、3月に交尾を確認 ・4月以降、繁殖に関わる目立つ行動は未確認 ・7月に地元猟師から立川地区の山中でクマタカの幼鳥のとまりを目撃したとの情報あり ・新たな巣の探索を行ったが未確認 ・調査では幼鳥は未確認	—	—	—	2021年12月～2022年3月の調査で幼鳥は未確認
2021-2022	2021年12月～2022年8月	△	・12月～3月に、V字、波状、爪合わせのディスプレイ、2月に交尾を確認 ・4月以降、繁殖に関わる行動は未確認	—	—	—	
2022-2023	2022年12月～2023年8月	△	・12月～3月につれだちを確認 ・4月以降、繁殖に関わる行動は未確認	—	—	—	
2023-2024	2023年12月～2024年9月	△	・12月～3月に過去営巣地付近での飛翔を確認 ・3月にV字ディスプレイ飛翔を確認	—	—	—	
2024-2025	2024年12月～2025年8月	◎ (推定)	・1月につがいの並びとまりを確認 ・3月以降、繁殖に関わる行動は未確認 ・翌年2月、幼鳥1羽の飛翔、とまりを確認	1	不明	不明	
2025-2026	2025年12月～2026年3月	翌年以降一時調査終了	・2月～3月にA1巣(落巣)付近で前年生まれの幼鳥1羽を確認 ・巣外育雛を継続しており、繁殖に関わる目立つ行動は未確認	—	—	—	

注1) 繁殖成否 ◎: 巣立ちを確認, △: 繁殖中断, ×: 繁殖せず

注2) 2011-2012年繁殖期は調査を実施していない。

表 4.2.3-20(2) クマタカの過年度からの繁殖状況(その2)

【B つがい】

繁殖期	調査時期	繁殖成否	判断根拠	巣立雛数	巣立時期	利用営巣木	備考
2009-2010	2009年11月～2010年7月	×	・3月まで繁殖に関わる行動は確認されず、その後もほとんど未確認	—	—	—	
2010-2011	2010年11月～2011年7月	×	・11～2月まで誇示飛翔やつがいどまり等が確認されていたが、それ以降は目立った繁殖に関わる行動は未確認 ・飛翔状況等から B1 巣を発見・確認したが、利用痕跡なし	—	—	—	
2011-2012	調査未実施	不明	—	—	—	—	
2012-2013	2013年1月～2013年7月	×	・繁殖に関わる行動はほとんど未確認	—	—	—	
2013-2014	2013年11月～2014年8月	◎	・B1 巣付近での飛翔を継続的に確認 ・7月営巣踏査時に B1 巣の利用痕跡を確認、8月に巣立ち後の幼鳥を確認	1	2014年7月(推定)	B1	
2014-2015	2014年12月～2015年3月	×	・B1 巣付近で3月まで幼鳥を継続的に確認、幼鳥の巣外育雛が継続されているものと推定 ・B1 巣を確認したが、利用痕跡なし	—	—	—	
2015-2016	2015年12月～2016年8月	△	・B1 巣付近で成鳥の飛翔を継続的に確認 ・12～3月まで2013-2014年繁殖期生まれ推定の若鳥が確認されていたが、4月以降未確認 ・7月営巣踏査時に B1 巣に巣材が追加されていることを確認したが、幼鳥等は未確認	—	—	B1	
2016-2017	2016年12月～2017年8月	◎	・7月営巣踏査時に B1 巣付近で幼鳥の飛翔、8月に巣立ち後の幼鳥を確認	1	2017年7月	B1	
2017-2018	2017年12月～2018年8月	×	・B1 巣付近で成鳥の飛翔を継続的に確認 ・12月～翌年4月まで前年生まれ推定の幼鳥が確認され、巣外育雛期が継続しているものと推定 ・7月営巣踏査時に B1 巣に巣材が追加されていることを確認したが、幼鳥等は未確認	—	—	B1	
2018-2019	2018年12月～2019年8月	◎	・1月に B1 巣周辺でつがいとまり、2月～3月にディスプレイ飛翔を確認 ・6月営巣踏査時に B1 巣内に雛、7月に巣立ち後の幼鳥を確認	1	2019年7月	B1	
2019-2020	2019年12月～2020年8月	×	・B1 巣付近で成鳥の飛翔を継続的に確認 ・2020年6月まで前年生まれ推定の幼鳥が確認され、巣外育雛期が継続していると推定 ・幼鳥は7月以降未確認	—	—	—	
2020-2021	2020年12月～2021年8月	◎	・B1 巣付近で成鳥の飛翔を継続的に確認 ・7月に B1 で巣材や青葉の増加、巣内部に羽毛の付着がみられ、巣の利用の痕跡を確認 ・2021-2022年繁殖期の調査で、2020-2021年繁殖期に生まれと推定される幼鳥を確認	—	—	B1	
2021-2022	2021年12月～2022年8月	×	・B1 巣付近で成鳥の飛翔を継続的に確認 ・2022年6月や8月に2020-2021年繁殖期生まれと推定される幼鳥を確認しており、幼鳥の巣外育雛期が継続しているものと推定	—	—	—	
2022-2023	2022年12月～2023年8月	△	・B1 巣付近で成鳥の飛翔を継続的に確認 ・B1 巣を確認したが、利用なし	—	—	—	
2023-2024	2023年12月～2024年9月	△	・1月～3月にディスプレイ飛翔を確認 ・1月に雌雄のつかかりディスプレイを確認	—	—	—	
2024-2025	2024年12月～2025年8月	◎	・8月に B1 巣を使用した痕跡を確認 ・8月に B1 巣付近で成鳥と幼鳥の鳴きかわしを確認	1	2025年7月	B1	
2025-2026	2025年12月～2026年3月	翌年以降一時調査終了	・12月～3月に前年生まれの幼鳥1羽を確認 ・巣外育雛を継続しており、繁殖に関わる行動は未確認	—	—	—	

注1) 繁殖成否 ◎：巣立ちを確認, △：繁殖中断, ×：繁殖せず, 不明：繁殖状況不明

注2) 2011-2012年繁殖期は調査を実施していない。

【行動圏の内部構造】

クマタカの行動圏については、評価書では「猛禽類保護の進め方（特にイヌワシ、クマタカ、オオタカについて）」（環境庁、1996 以下、猛禽マニュアル）に従って高利用域などの行動圏解析が行われている。その後、上記猛禽マニュアルは「猛禽類保護の進め方（改訂版）－特にイヌワシ、クマタカ、オオタカについて－」（環境省、2012）に改訂されている。

改訂後の猛禽マニュアルでは繁殖に関わる行動といった指標行動に基づいて高利用域解析を行うこととされているが、事後調査では評価書における調査（6～11 定点）に比べ、調査規模が縮小（3～4 定点）しているため、評価書同様の猛禽マニュアルに従って行動圏解析を行うことはせず、全行動を包括する範囲を行動圏として整理したうえで工事後の変化を把握することとした。

なお、隣接つがいである B つがいについても参考として行動圏を整理した。

各つがいについて推定された行動圏は表 4. 2. 3-21 及び図 4. 2. 3-10 に示すとおりである。

A つがいについては、対象事業実施区域の南西側に行動圏が位置する。2024-2025 年繁殖期の行動圏は、例年と比較すると少し西に移動した。面積は例年より小さかった。

B つがいについては、対象事業実施区域の北東側に行動圏が位置する。2024-2025 年繁殖期の行動圏は、例年と比較するとほぼ同じ位置で、面積は例年よりやや大きかった。

表 4. 2. 3-21 クマタカ行動圏（面積：ha）の推移

繁殖期	A つがい	B つがい（参考）
2010-11 年繁殖期	1, 190. 0	1, 190. 0
2012-13 年繁殖期	1, 555. 5	952. 0
2013-14 年繁殖期	1, 630. 6	895. 8
2014-15 年繁殖期	1, 727. 8	576. 7
2015-16 年繁殖期	1, 133. 2	873. 3
2016-17 年繁殖期	727. 7	726. 7
2017-18 年繁殖期	954. 6	364. 2
2018-19 年繁殖期	1, 091. 7	1, 126. 2
2019-20 年繁殖期	775. 3	826. 5
2020-21 年繁殖期	509. 2	389. 5
2021-22 年繁殖期	1, 020. 7	574. 2
2022-23 年繁殖期	1, 535. 1	471. 8
2023-24 年繁殖期	1, 091. 5	972. 6
2024-25 年繁殖期	680. 5	843. 8
平均値	1, 116. 0	770. 2

注1) B つがいは参考データ。

注2) 2010-11 年繁殖期は2010年11月～2011年7月の調査結果

2012-13 年繁殖期は2013年 1月～2013年7月の調査結果

2013-14 年繁殖期は2013年11月～2014年8月の調査結果

2014-15 年繁殖期～2022-23 年繁殖期、2024-25 年繁殖期はそれぞれ12月～8月の調査結果

2023-24 年繁殖期は2023年12月～2024年9月の調査結果

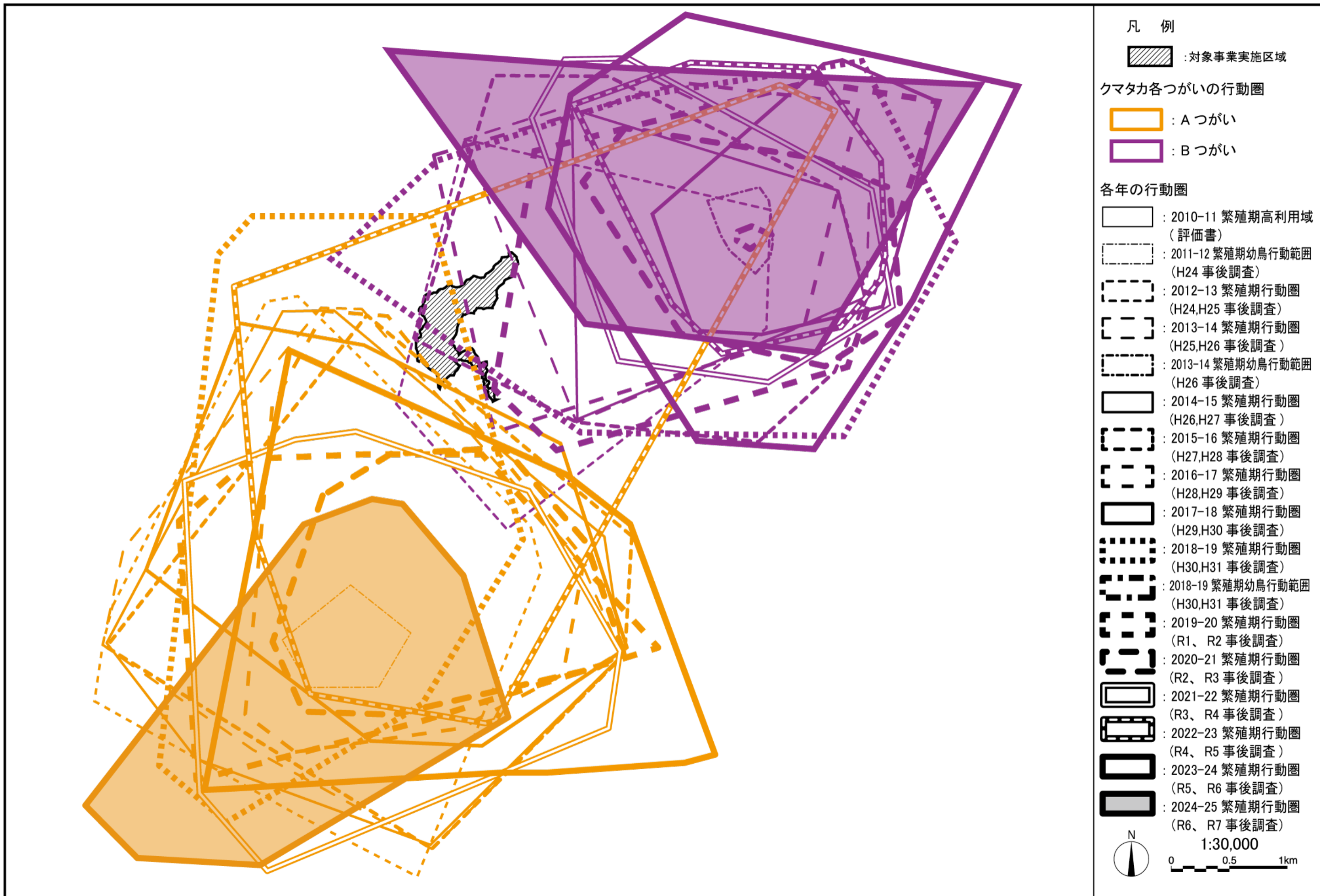


図 4.2.3-10 クマタカの行動圏

【ハンティングエリア】

クマタカについて、全ての個体を対象に採餌や餌運びといった行動を基にハンティングエリアを整理した。クマタカのハンティングエリアについては図 4.2.3-11 に示すとおりである。

クマタカは林内を移動しながら狩りを行うことも多く、ハンティングに関わる行動を直接観察できることは少ないため、採餌とまりや採餌飛翔なども含めてハンティングエリアを推定した。

A つがいの 2024-25 年繁殖期におけるハンティングに関わる行動は記録されなかったが、対象事業実施区域南西側の白口地区で採食後と考えられる個体が記録されており、この地域の伐開地周辺をハンティングエリアとして利用していると推定される。

B つがいの 2024-25 年繁殖期のハンティングエリアについては、対象事業実施区域東側の B1 巢の周辺地域であった。

また、調査時に確認されたクマタカの餌生物は表 4.2.3-22 に示すとおりである。上記に示すとおり、ハンティングに関わる行動を直接観察できることは少ないことから、餌生物の確認頻度は低く、調査開始以降ヘビ類、小型哺乳類、餌生物不明が数回確認されているのみである。2024-25 年繁殖期においては、餌運びは確認されなかった。

表 4.2.3-22 クマタカの餌生物の状況（種別確認回数）

繁殖期	ヘビ類	小型哺乳類	不明	合計
2012-13 年繁殖期	0	0	0	0
2013-14 年繁殖期	1	0	0	1
2014-15 年繁殖期	0	2	0	2
2015-16 年繁殖期	0	0	0	0
2016-17 年繁殖期	0	1	0	1
2017-18 年繁殖期	0	0	0	0
2018-19 年繁殖期	0	0	0	0
2019-20 年繁殖期	0	0	1	1
2020-21 年繁殖期	0	0	0	0
2021-22 年繁殖期	0	0	0	0
2022-23 年繁殖期	0	0	0	0
2023-24 年繁殖期	0	0	0	0
2024-25 年繁殖期	0	0	0	0
合計	1	3	1	5

注) 2013-14 年繁殖期：平成 25～26 年事後調査（2013 年 11 月～2014 年 8 月）の調査結果
 2014-15 年繁殖期：平成 26～27 年事後調査（2014 年 12 月～2015 年 8 月）の調査結果
 2015-16 年繁殖期：平成 27～28 年事後調査（2015 年 12 月～2016 年 8 月）の調査結果
 2016-17 年繁殖期：平成 28～29 年事後調査（2016 年 12 月～2017 年 8 月）の調査結果
 2017-18 年繁殖期：平成 29～30 年事後調査（2017 年 12 月～2018 年 8 月）の調査結果
 2018-19 年繁殖期：平成 30～31 年事後調査（2018 年 12 月～2019 年 8 月）の調査結果
 2019-20 年繁殖期：令和 1～2 年事後調査（2019 年 12 月～2020 年 8 月）の調査結果
 2020-21 年繁殖期：令和 2～3 年事後調査（2020 年 12 月～2021 年 8 月）の調査結果
 2021-22 年繁殖期：令和 3～4 年事後調査（2021 年 12 月～2022 年 8 月）の調査結果
 2022-23 年繁殖期：令和 4～5 年事後調査（2022 年 12 月～2023 年 8 月）の調査結果
 2023-24 年繁殖期：令和 5～6 年事後調査（2023 年 12 月～2024 年 9 月）の調査結果
 2024-25 年繁殖期：令和 6～7 年事後調査（2024 年 12 月～2025 年 8 月）の調査結果

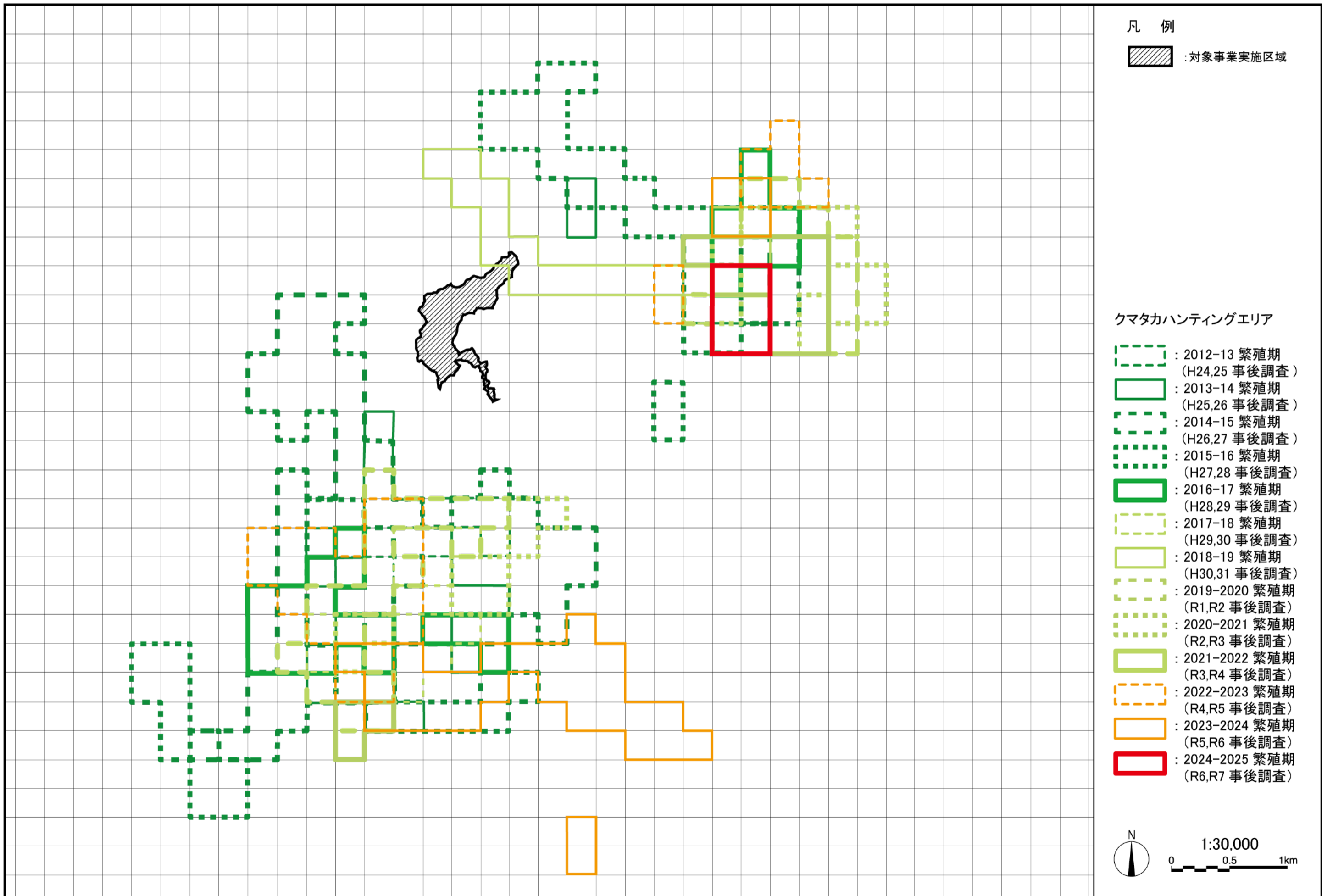


図 4.2.3-11 クマタカのハンティングエリア

③ 考 察

サシバについては、2025年繁殖期の調査の結果、対象事業実施区域周辺で8つがい(KM・NT、YM、TH・HG、NO、NK、OD、SK、事業地内つがい)の生息が確認され、このうちYMつがいを除く7つがいで巣立ち幼鳥が確認された。繁殖を確認した7つがいのうち、3つの営巣地を特定しており、KM・NT、ODつがいは既知の営巣地で、TH・HGつがいは新たな営巣地で繁殖した。2025年繁殖期には対象事業実施区域内でつがい(事業地内つがい)の生息が確認され、巣立ち幼鳥も確認された。防災調整池付近で繁殖したと推定され、造成により開けた環境が、探餌や狩りに適していた可能性がある。

調査期間を通して、本事業に係る工事等は行われなかった。施設が稼働していたものの、調査中に出現したサシバに異変や警戒行動などはみられず、多くのつがいが繁殖に成功している。

これらのことから、本事業がサシバの生息状況に影響を及ぼしている可能性は低いと考えられる。

クマタカについては、Aつがいを対象とした調査を実施しており、2024-2025年繁殖期は2月までに過年度営巣地(A2)から南西方向に約1km以上離れた山林で雌の長時間のとまりや、つがいの並びとまりが確認された。3月以降、繁殖行動は確認されなかった。2026年2月調査及び3月調査時には、A1巣(落巣)付近で2024-2025年繁殖期生まれの幼鳥の飛翔、とまりが確認された。付近ではAつがいの雄成鳥及び雌成鳥も確認されており、A1巣周辺で繁殖した可能性が高い。

一方、参考として観察対象としたBつがいの2024-2025年繁殖期は、8月に既知営巣地における繁殖の痕跡や巣の周辺で成鳥と幼鳥の鳴きかわしが確認された。また、2025年12月から2026年3月調査時にかけて、B1巣周辺で幼鳥の飛翔、とまりが頻繁に確認され、当該エリアでの繁殖に成功したと判断した。

前述のとおり調査期間を通して、本事業に係る工事等は行われなかった。施設が稼働していたものの、調査中に出現したクマタカに異変や警戒行動などはみられなかった。

これらのことから、本事業がクマタカの生息状況に影響を及ぼしている可能性は低いと考えられる。

猛禽類(サシバ及びクマタカ)については、2025年度時点において継続的に繁殖を確認していることから、事業者の実施可能な範囲で環境保全措置が実施されていると考えられる。

(7) 今後の調査計画

次年度以降、第1期工事の終了に伴い、調査を終了する。

ただし、第2期工事着手時には、事業実施による影響を再度確認するため、表4.2.3-23に示すとおり、猛禽類(サシバ及びクマタカ)の調査を実施することとする。

表 4.2.3-23 今後の事後調査計画（案）（サシバ・クマタカ）

種別	内容等																
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・サシバの繁殖状況 ・クマタカの繁殖状況 ・その他隣接するつがいや、サシバ、クマタカ以外の重要な鳥類 																
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定点観察 望遠鏡や双眼鏡で行動を観察・記録するとともに、採餌や採餌の確認に努め、餌生物の種類を可能な範囲で記録する。 ・営巣地踏査 現地踏査による営巣木や繁殖、巣立ち状況を確認する。 ・個体写真の撮影 個体識別に努めるとともに、つがいの継続性等を把握できるように個体写真の撮影を行う。 																
調査地点	<p>これまでの観察地点等を参考とし、これまでに繁殖が確認されたサシバ、クマタカの営巣地周辺を見通せる地点を設定する。ただし、出現状況等に応じて適宜新しい地点を設けるほか、移動しての確認、林内踏査も行い、より適切な把握に努める。なお、営巣地直近の地点ではサシバ、クマタカの繁殖に配慮し、長時間にわたって同じ位置で観察したり、営巣地を長時間直視したりすることがないように実施する。</p>																
調査時期・頻度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 定点観察 <ul style="list-style-type: none"> ・サシバ：4～7月に4地点×3日/月×4回（延べ48地点） ・クマタカ：以下（繁殖成功ベース）の期間や工数等をふまえ、繁殖経過等に応じて変更 <ul style="list-style-type: none"> ○5～8月に2～4地点×3日/月×4回（延べ36地点） ○12月～翌年3月に2～4地点×3日/月×4回（延べ36地点） ■ 営巣地踏査（現地踏査） <ul style="list-style-type: none"> ・6～7月に3回（サシバ(2回)、クマタカ(1回)：営巣木や繁殖・巣立ち状況確認） ・8月に1回（クマタカ：営巣木や繁殖・巣立ちの状況確認） ・11～12月に1回（クマタカ：営巣木や次年のための古巣確認） <p>※【第1期】平成25年4月～平成27年3月、【第2期】時期未定 供用後：それぞれ完成後2年間 ※繁殖経過や工事の影響に応じて調査計画を見直し、変更や中止を検討する。 ※工事工程の見直しの判断基準は以下のとおりとするが、適宜学識経験者の指導を得て判断する。</p> <table border="1" data-bbox="459 1346 1375 1704"> <thead> <tr> <th colspan="2" data-bbox="459 1346 807 1382">判断基準</th> <th data-bbox="807 1346 1070 1382">暫定的な判断基準</th> <th data-bbox="1070 1346 1375 1382">工事の実施</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2" data-bbox="459 1382 807 1440">コアエリアの外</td> <td data-bbox="807 1382 1070 1440">営巣木より1.5km以上</td> <td data-bbox="1070 1382 1375 1440">影響がないと判断して工事実施</td> </tr> <tr> <td data-bbox="459 1440 531 1704" rowspan="3">コアエリア</td> <td data-bbox="531 1440 807 1500">コアエリア内（高利用域）</td> <td data-bbox="807 1440 1070 1704" rowspan="3">営巣木より1.5km以内（高利用域） 営巣木より1km以内（営巣中心域）</td> <td data-bbox="1070 1440 1375 1704" rowspan="3">営巣地等を考慮して工事の実施方法を検討する。変更区域がコアエリア内に位置する場合は、工事工程等の見直しを行う。また、調査結果を工事に反映しながら進める。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="531 1500 807 1561">繁殖テリトリー内（営巣中心域）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="531 1561 807 1704">幼鳥の行動圏内（営巣中心域内。巣立ち幼鳥の翌年2月までの行動範囲）</td> </tr> </tbody> </table> <p>※「工事工程の見直し」とは、工事の一時中断のほか、コンディショニング等を含む。また、「調査結果を工事に反映」には、工事工程等の見直しとして工事を一時中断していた場合で、調査結果として繁殖の失敗が確認できた場合には、その時点から工事の再開を想定している。</p>			判断基準		暫定的な判断基準	工事の実施	コアエリアの外		営巣木より1.5km以上	影響がないと判断して工事実施	コアエリア	コアエリア内（高利用域）	営巣木より1.5km以内（高利用域） 営巣木より1km以内（営巣中心域）	営巣地等を考慮して工事の実施方法を検討する。変更区域がコアエリア内に位置する場合は、工事工程等の見直しを行う。また、調査結果を工事に反映しながら進める。	繁殖テリトリー内（営巣中心域）	幼鳥の行動圏内（営巣中心域内。巣立ち幼鳥の翌年2月までの行動範囲）
判断基準		暫定的な判断基準	工事の実施														
コアエリアの外		営巣木より1.5km以上	影響がないと判断して工事実施														
コアエリア	コアエリア内（高利用域）	営巣木より1.5km以内（高利用域） 営巣木より1km以内（営巣中心域）	営巣地等を考慮して工事の実施方法を検討する。変更区域がコアエリア内に位置する場合は、工事工程等の見直しを行う。また、調査結果を工事に反映しながら進める。														
	繁殖テリトリー内（営巣中心域）																
	幼鳥の行動圏内（営巣中心域内。巣立ち幼鳥の翌年2月までの行動範囲）																
評価基準	<p>工事前の調査結果との比較（行動圏、ハンティングエリア等） なお、調査内容や結果、影響の判断は猛禽類の指針やマニュアルを参考とするほか、学識経験者の指導（2回を予定）を得る。</p>																